

1. 件名：「志賀原子力発電所2号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（43）」

2. 日時：令和2年10月7日（水）13時30分～15時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官※、谷主任安全審査官、海田安全審査専門職、菅谷技術研究調査官、磯田係員、松末技術参与

北陸電力株式会社：小田執行役員 他8名 ※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地の地質・地質構造について 敷地内断層の活動性評価（コメント回答）
- ・ 志賀原子力発電所2号炉 敷地の地質・地質構造について 補足資料
- ・ 志賀原子力発電所 2号炉 適合性審査コメントリスト【地質関係】※₁
- ・ 志賀原子力発電所 2号炉 適合性審査コメントリスト【地質関係】※₂

※₁：第875回までの審査会合で指摘したコメント

※₂：第902回の審査会合（令和2年10月2日）で指摘したコメント

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	原子力規制庁のタニです。それでは出荷原子力発電所 2 号炉敷地の地質地質構造についてということで、敷地内断層の活動性評価ですね、このヒアリングを始めたいと思います。まず事業者さんの方から、
0:00:17	資料の説明をお願いいたします。
0:00:21	はい。北陸電力の藤田です。私の方から資料の構成と概要を 5 分程度、それから詳細の方、担当のキムラから 45 分程度説明させていただきます。
0:00:33	まず資料ですけれども、まず 1 点目が本資料別、2 点目が補足資料別冊で用意しております。
0:00:41	3 点目がこれまで受けましたコメントの一覧と、
0:00:44	4 点目が、10 月 2 日の審査会合でのコメントの一覧ということで、4 種類用意させていただいております。
0:00:52	それでは、説明の概要に入ります。
0:00:54	本資料の 3 ページ目をお願いします。今回は 4 月 10 日の会合でご説明したステージ 6 本と、珪質三本の活動性評価に関するコメント回答、それと今回追加した計 18 の
0:01:10	活動性評価についてご説明します。
0:01:13	4 ページをお願いします。
0:01:14	す。こちらは未回答のコメントの一覧で、
0:01:18	評価活動性評価に関する部分をご説明します。
0:01:22	5 ページ目はコメント回答の概要で、それぞれ該当ページで詳細を説明したいと思います。
0:01:28	4 ページ 5 ページには、10 月 2 日のコメントは含めていませんが、別紙ではお配りした No.108109 として案を作成してございます。
0:01:38	別の方、さっき読み上げますと、No.108。
0:01:41	断層の系統区分について走向傾斜運動方向による 6 種類の区分をわかりやすく分類表で示すこと。
0:01:49	No.109XRD分析結果に示す社長席について町長席等に返信したいことを資料に明記すること。以上の二つのコメントにつきましては改めて資料化してご説明したいと思います。
0:02:02	6 ページをお願いします。
0:02:05	本日のポイントのページです。
0:02:07	上の四角枠の 1 枚目ですが、S1S2S6S4 は従来通り上載法により評価しています。

0:02:15	での深度に関する考察を超えていますので、該当ページで詳しくご説明します。
0:02:20	丸めホーム詰め込みにつきましては、
0:02:23	イライトスメクタイト混合層パールCT碎屑岩脈を用いて評価を行っております。
0:02:30	右側の表に紫で示す、
0:02:32	五つの鉱物脈データは、7月以降、新たに取得したものです。
0:02:37	7ページ目で少し詳しく説明します。7ページをお願いします。
0:02:43	活動性評価の結果について断層ごとに整理した一覧です。
0:02:47	上載層による評価は鉱物脈法は黄色で着色しております。
0:02:53	脈の形状に関する前回の会合での議論を踏まえ一覧表の欄外に記載の通り、
0:02:59	薄片作成時の乱れの影響のある可能性がある発見や変質鉱物と最新活動との関係が明確に確認しない確認できない薄片は、根拠に用いないこととしました。
0:03:12	それ、その結果ですね、これまで計14で評価に用いていましたフィリップサイトについては、
0:03:17	1月の会合での脈の形状の議論、最新面を明瞭にオダしてないことを踏まえ、主たる根拠に根拠としては用いておりません。
0:03:26	一方4月以降、新たに取得した薄片で、より説明性の高いと判断したものは、根拠に追加しています。
0:03:33	具体的には紫色で示しますS1S4S7計算、それから今回加えたK18について、データをお示したいと思います。
0:03:44	この中で計算については、前回権利と比較し、間接的な評価となっておりますけれども、
0:03:50	今回は計算の固結した破碎部に分布するイライトスメクタイト混合層対象に鉱物脈工程評価しています。
0:03:59	観察の結果、最新ゾーンの中のイライトスメクタイト混合層に変位変形がないことを確認してございます。
0:04:07	なお計算を含め、すべての断層で鉱物脈法で評価を行うことができたことから、
0:04:13	以前まで資料には、鉱物脈法等々という表現をしておりましたが、今回から鉱物眼コートすべて書き直しております。

0:04:22	以上のデータの追加見直しを図り、再評価した結果、表の右側に記載しておりますが、いずれの断層も大きい更新世以降の活動は認められないと評価しております。
0:04:34	8 ページ 9 ページ目は目次で、5 補償の活動性評価について、前回からの追加した点を中心に説明したいと思います。
0:04:42	以上が概要です。
0:04:44	10 ページ以降以降はキムラの方から説明させていただきます。
0:04:51	はい、北陸電力の木村です。そしたら資料の方 12 ページをご覧ください。
0:04:58	まず活動性評価の方針につきましては、7 月の第 875 回審査会合から変更ありません。本日の説明では、右の表のほうで紫色で記載しております。今回新たに取得したデータや、
0:05:13	コメント回答を中心に説明させていただきます。
0:05:18	次、13 ページから 16 ページ。
0:05:21	ですけれども、各断層の活断層評価の方針を示しております。
0:05:26	ここで
0:05:28	方面を紫色で示している箇所は、今回の変更箇所になりますが、コメントの No.103 番への対応としまして、左下の米印の紫色の記載のところ、13 ページの※※5 の S1 の
0:05:45	H-6.5 の 2 項及び K の 10.3 SW 項 15 ページの※4、
0:05:52	E-11.5 SE の 2 項及び 16 ページの※4 の
0:05:59	K-14 の H' の マイナス 1.3 項の
0:06:05	これは派遣につきましては、派遣作成時の乱れの影響を受けている可能性を考慮しまして、
0:06:11	活動性評価の根拠としては、用いないこととしました。また、同じく 16 ページの※2 の S5-h-5.4-4 以降、並びに米三の計算ですけれども、N-
0:06:27	A2.3-1 孔等の薄片につきましては、変質鉱物と最新活動との関係が明確でないということから、活動性評価の根拠としては用いないこととしました。
0:06:41	次の 17 ページ以降は、鉱物脈法による活動性評価につきまして、続きまして、19 ページからがかつその評価に用いる変質鉱物の説明となっております。
0:06:54	21 ページをご覧ください。
0:06:58	このページが概要となっておりますけれども、紫色で示した前回からの変更箇所について説明いたします。

0:07:06	まず上から三つ目の箱の(1)の2のところですが、敷地と同じような変質が広範囲に及ぶことを確認するために、敷地周辺及び深部の変質の状況について表土はぎ調査、クサリ分析文献調査を追加で行いました。
0:07:25	その結果、敷地周辺及び深部の穴水累層中には、
0:07:30	敷地のチオ付近と同様な変質が認められましたが、
0:07:34	第4系には認められないことを確認しました。これにより、変質鉱物は敷地周辺一帯が50度以上となるね使う評価で生成したというふうに評価評価しました。
0:07:46	次に下の箱の(1)の3ですが、変質鉱物の生成年代の評価で、左側に地下深部で生成した場合、右側に熱水により生成した場合の二つの場合について評価しておりますが、その温度条件について、よりわかりやすく、
0:08:04	するために、地下深部については、地温勾配相当の高温であること、NSIについては、過去の火成活動に伴う地温勾配以上の高温であるということを追記しております。
0:08:16	さらにbarCTの生成年代につきまして、直接的に確認するために、今回ウラン鉛年代測定を追加で実施しております。
0:08:27	その結果、11.7Maという絶対年代値がえられております。
0:08:33	以上のことから、少なくとも後期更新世以降に生成されたものではないと評価した変質鉱物のうち、IS混合層及びパールCT
0:08:44	Aそれから碎屑岩脈を用いまして、鉱物脈法による活動性評価を行いました。
0:08:50	以上が概要でございます、以降のページにつきまして、今回変更した箇所についてご説明します。
0:08:57	23ページをご覧ください。
0:09:01	敷地で確認される変質鉱物の衝突体確認ですが、今回年度分を濃集したXRD分析で、右下の表の紫色で示した3ヶ所で追加分析を実施しております、さらに24ページ。
0:09:17	EPMA分析で、右下の表の紫色の5ヶ所で追加分析を実施して、IS今後そうであるということを確認しております。
0:09:28	またこれらの追加分析データを26ページから30ページのほうの図に追加しております。
0:09:36	続きまして、40ページから、変質鉱物の生成環境の評価になりまして、変質鉱物の生成温度時間、敷地周辺の地温分布を載せておりますが、これにつきましては、前回と同じ内容となっております。
0:09:53	今回の新たな検討につきまして47ページをご覧ください。
0:10:01	コメントの102番の対応としまして、敷地の地表付近で認められる変質鉱物の分布の広がりを確認するために、

0:10:11	敷地周辺及び深部の変質作用に関する調査を追加で行っております。
0:10:18	杉周辺は穴水累層とそれを第4系から成っておりますが、まず穴水累層につきましては、敷地周辺の講座に関する調査の結果、敷地の北方に模擬講座敷地の東方にサグチ鉱山がありまして、
0:10:34	それぞれ穴水累層中にIS混合層や石英等が認められております。
0:10:40	それから敷地東方の大坪がダムでは、
0:10:44	／RCP等の変質鉱物を確認しました。
0:10:49	そして敷地の深部では、大深度ボーリングにおいて、／RCP及び石英が確認されました。
0:10:56	また、第4系についてですが、敷地及び敷地周辺には段丘堆積物のどの第4系が分布しておりますが、その第4系には熱水変質脈は認められず、
0:11:07	敷地周辺の第4系に熱水変質がおよんでいるという、文献も認められません。
0:11:14	以上より、敷地が地表付近に確認される鉱物は、敷地周辺及び敷地深部のウナミ累層中の範囲で認められましたが、第4系には認められませんでした。以降のページに詳細なデータをつけております。
0:11:31	48ページ後に鉱山サグチ鉱山に関する文献調査及び分析結果です。
0:11:38	問い口座は敷地と同じ穴水累層中に、1000熱水性元金石英脈を伴う交渉でありまして、最新の研究では設計やIS混合層が確認されております。
0:11:52	サグチ講座は穴水累層と穴水累層の境界にF鉱物同鉱山とされておりまして、下のほうに写真とXRD分析を載せておりますが、鉱山周辺で石英を確認しております。
0:12:08	49ページは、大坪がだめ周辺の調査結果です。
0:12:13	敷地の約1キロ東方に位置する大坪がダム周辺では、穴水累層が全体的に熱水等による影響を受けておりまして、白色コース部や網目状節理二相白色脈が多く認められております。
0:12:28	右上の写真の右岸、何道路何北道路のり面や、その下の南の道路のり面の表土はぎで認められる白色検出部を対象として、XRD分析を行った結果、下の表に示しますように、
0:12:45	主な変質鉱物として石英放り内と相談四番席に加えて、barCTを確認しました。
0:12:54	続きまして、50ページは敷地深部の調査結果になります。
0:12:59	大深度ボーリングにおいて、深部の穴水累層中で、左下の写真のように脈状に認められる白書っぽ物について、XRD分析を実施しました。

0:13:11	その結果、／RCPと石英が確認されまして、右の図のように深度ごとに解析、改善チャートで整理した結果、浅部では主にパールCT深部では、より高温で
0:13:26	生成する石英が主に認められました。
0:13:29	51 ページは、変質鉱物の生成環境の評価のまとめとなっております。
0:13:36	まず一番左の箱で、変質鉱物の生成温度時間につきましては、IS混合層をPartCTフリップサイトはいずれも地温 50 度以上の環境下で生成し、文献によれば、約 50 度で性、
0:13:51	生成する場合には、数十万年以上の期間を要するというふうにされております。
0:13:57	次に真ん中の箱ですが、敷地周辺の地温分布、火成活動については、敷地及び敷地周辺は、一般的な地温勾配で、地熱地帯ではなく、第四紀以降に地表付近において、地温 50 度以上となる環境下にはない地域であるということを確認しました。
0:14:17	また、一番右の箱ですけれども、今回追加で行った敷地周辺及び深部の変質に関する調査の結果、敷地の地表付近で認められる変質鉱物は、敷地周辺及び深部の穴水累層中の範囲で認められましたが、
0:14:33	第 4 系では認められませんでした。
0:14:35	以上の結果から、下の黄色の方が結論になりますが、変質鉱物は、チオ付近の現環境とかでは生成するものではなく、H地下深部や火成活動の影響により、敷地周辺一帯が 50 度以上となる熱環境下で生成したと評価されます。
0:14:55	52 ページからは、変質鉱物の生成年代の評価になりまして、これは前回までのご説明の通りでございまして、52 ページは地下深部で生成した場合、53 ページは熱水により生成した場合の生成年代の評価になります。
0:15:11	さらに 40、54 ページを今回追加しまして、新たに実施した分布分析結果になりますが、O/RCPの生成年代につきまして、ウラン鉛年代測定を行った結果、 $11.7 \pm 1.1\text{Ma}$ と、
0:15:28	いう年代値が入れられました。
0:15:32	以上のことから、下の黄色の箱が変質鉱物の生成年代のまとめにあります
0:15:38	が、
0:15:38	地下深部で生成した場合及び熱水により生成した場合のそれぞれの評価。
0:15:44	それから／RCPのウラン鉛年代長へ踏まえると、敷地の変質鉱物は少なくとも後期更新世以降に生成した鉱物ではないと評価しました。
0:15:56	続きまして、55 ページは碎屑岩脈の形成年代の評価ですが、これは前回から変更はありません。
0:16:05	56 ページは評価に用いる変質鉱物のまとめとなっております。

0:16:10	左上の変質鉱物の生成年代の評価の結果と、右上の碎屑岩脈の評価の結果から、少なくとも後期更新世以降に生成した鉱物ではないと評価されるIS混合層をパールCT及び碎屑岩脈を用いて、
0:16:25	スミヤ法による評価を行いました。
0:16:29	57 ページからは、最新面と最新面付近の変質鉱物についてです。
0:16:34	58 ページをご覧ください。
0:16:38	これ最新面の認定の考え方ですが、前回から基本的な考え方に変更ありませんが、薄片観察における文体と破碎部区分との関係がわかるように、
0:16:51	というコメントの 101 番踏まえまして、右下の派遣観察中の箱書きのところに例として記載しております。
0:17:01	ここで記載の通り、薄片観察における文体 3 が粘土状破碎部に対応しております。軍隊 124 は固結破碎部に対応するというこういったように、以降の薄片でも同様に文体と破碎部区分との関係がわかるように示しております。
0:17:21	59 ページは、粘土状破碎部及び固結破碎部のオーナーの程度を定量的に確認するためにRI貫入試験を実施した結果になります。
0:17:30	60 ページに針貫入試験の実施位置を示しております。
0:17:35	59 ページの緑色の表の粘土状破碎部では、2 から 3 を青色の表の固結破碎部では、46 から 71 という針貫入勾配の値を示しております。粘土状破碎部と固結破碎部の硬軟の程度は明らかに異なっております。
0:17:54	個別山菜部は周辺の母岩と同程度の硬さを有することを確認しました。
0:18:04	続きまして、61 ページは同じくコメントの 101 番ですけれども、碎屑岩脈の固結の程度について確認するために、針貫入を針貫入試験を実施したというものです。
0:18:17	右上にM-12.5 通' 孔の薄片写真を示しておりますが、S1 の最新面を横断する碎屑岩脈については、この薄片の作成や分析を優先したために、やはり貫入試験を実施することができなかったのもので、
0:18:34	その地点の碎屑岩脈について、他の地点の碎屑岩脈について確認を行いました。
0:18:42	その結果、左の位置図で示すA-14.5S坑及びM-2.2 の 2 項の 2 ヶ所で碎屑岩脈が認められまして、右下のほうにコア写真をつけておりますが、これらの碎屑岩脈とS1 のほうで認められた碎屑岩脈は、
0:19:00	周辺と異なる物質が貫入しているという点で類似しております。
0:19:07	この 2 ヶ所で認められた碎屑岩脈において、針貫入試験を実施した結果を 62 ページに示しておりますが、
0:19:15	碎屑岩脈は、50 から 75 のAlike貫入項番 1 を示しております。

0:19:22	固結した破碎部や母岩と同程度の硬さを有するということが確認できました。
0:19:29	従って推定認められた碎屑岩脈につきましても、同程度に固いというふうに考えられます。
0:19:37	6364 ページは、前回の資料の再掲でございまして、資料の最終位置や分析内容、
0:19:45	EPMA分析の考え方を示しております。
0:19:51	続きまして 65 ページから各断層の公選法による評価になります。
0:19:57	ここでは前回の資料から追加変更した箇所について説明します。
0:20:03	まずS1 の鉱物脈法による評価で 66 ページをご覧ください。
0:20:10	右の位置図で紫色で示した築地の旧ABトレンチ及び北西部に位置するH-6.7 項を今回追加しまして、K3 地点で鉱物脈法による評価を行いました。
0:20:24	81 ページをご覧ください。
0:20:29	これが今回新たに追加したH-6.7 項の概要となっております。
0:20:35	82 ページの聴取的観察により、主せん断面を抽出しまして、8384 の微視的観察により最も細粒化している文体に軍隊 2 を最新ゾーンとして抽出しました。
0:20:51	この最新ゾーンの左側の境界及び右側の境界に直線性連続性のよい面が認められることから、これらを最新面位置にとして、それぞれについて、変質鉱物の関係を確認しました。
0:21:06	85 ページはXRD分析等の結果で、最新ゾーンやその周辺でIS混合層を確認しております。
0:21:15	86 ページ以降で、IS今後層と最新面の関係について確認しておりまして、
0:21:21	この右の薄片写真で黄色の枠で各囲った範囲、班員Bで、その関係が明瞭に確認できるため、その観察結果を以降のページで示しております。
0:21:34	87 ページ範囲における観察結果で、
0:21:38	最新面位置付近には広く粘土鉱物が分布して、最新面が不明瞭かつ不連続になっておりまして、また 88 ページにさらに拡大した写真をつけておりますが、不連続箇所の粘土鉱物にせん断名引きずりなどの変形は認められません。
0:21:55	また、89 ページのステージを回転させた写真でも注入の痕跡は認められません。
0:22:03	90 ページは、範囲Bにおける観察結果で、
0:22:06	算出最新面に付近に広く粘土鉱物が分布して、最新面が不明瞭かつ不連続になっており、せん断面や引きずりなどの変形は見てとめられません。91 ページのステージを回転させた写真でも注入の痕跡は認められません。
0:22:24	続きまして、S4 の詰め方につきましては、148 ページをご覧ください。

0:22:33	148 ページの右の位置図で、紫色で示した
0:22:40	E-8.50 吸い出し以降この重要施設である原子炉建屋の直下にするE-8.50 水'孔を今回追加しまして、km2 地点で鉱物脈法による評価を行いました。
0:22:56	149 ページが今回新たに追加したE-8.50 吸い出し項の概要となっております。
0:23:03	150 ページ以降につきましては、ここ、先ほどと同様の流れとなっております、最新面を抽出して、IS今後そう確認しております。
0:23:15	256 ページ以降で、IS今後層と最新面との関係を確認しております、
0:23:21	157 ページがその範囲の観察結果になります。
0:23:27	最新面付近には広く粘土鉱物が分布しております、最新面が不明瞭かつ不連続となっております、158 ページには、最新面位置付近の拡大写真、160 ページは最新面に付近の拡大写真ですが、
0:23:42	不連続箇所の粘土鉱物にせん断面や引きずりなどの変形は認められません。
0:23:50	次に数行の鉱物脈法による評価につきまして、174 ページをご覧ください。
0:23:58	前回はS5 の深部の発見データをつけておりましたが、これは変質鉱物と最新活動の関係が明瞭でないということから、最新ゾーンにIS混合層が認められたS鴻巣浅部にするR-8.1 の
0:24:15	1-3 項において、評価を行いました。
0:24:19	この 8 件につきましては、前回と同様でございますので再掲となっております。
0:24:26	次にS7 の鉱物脈法の評価につきまして 190 ページをご覧ください。
0:24:33	190 ページの右の位置図で、紫色で示した砂の浅部にするH-5.4-1 以降を今回追加しまして、2 地点で鉱物脈法による評価を行いました。
0:24:47	191 ページが今回新たに追加したH-5.4-1 以降の概要となっております。
0:24:55	これ以降同様の流れとなっております、最新面の抽出と、IS混合槽はしゃへ最新面及び周辺に分布しているということを確認しております。
0:25:07	チャッキ 98 ページ以降で、IS混合層と最新面との関係を確認しております、右の未反映の観察結果を 199 ページにつけております。
0:25:19	最新面、
0:25:20	委員には広く粘土鉱物が分布して、最新面が不明瞭かつ不連続となっております、200 ページの拡大写真で不連続箇所の粘土鉱物にせん断面引きずりなどの変形は認められません。
0:25:35	続きまして、K2 の鉱物脈法の評価につきまして、230 ページをご覧ください。
0:25:46	230 ページの

0:25:51	いや 30 ページはK2 の弱ほどある評価になりますが、K2 の最新ゾーンにbar CTが認められたH-1.1 項において、その評価を行いました。この発見は前回示したものと同じものですが、
0:26:07	最新ゾーンの周辺に粘土鉱物が認められましたので、その鉱物に関する分析を一部追加した箇所について説明します。
0:26:17	235 ページをご覧ください。
0:26:22	最新ゾーンの周辺で、真ん中に示す発見写真で、黄色の楕円で囲った箇所。
0:26:29	ここで試料採取して、XRD分析を実施した結果、主な粘土鉱物としてスメクタイトが認められ、その他の粘土鉱物としてはセピオライトが認められました。
0:26:41	スメクタイトについて年度分を濃集したXRD分析を実施した結果、IS混合層と判定されました。
0:26:49	236 ページにもEPMA分析の結果からも、この粘土鉱物はIS混合層と判断されます。
0:26:58	そして 237 ページのEPMAマッピングで、
0:27:01	IS混合層は最新ゾーンの周辺に分布していることを確認しました。
0:27:07	238 ページからは、PartCTの同定となっております、これは前回の資料の再掲となっております。
0:27:15	244 ページをご覧ください。
0:27:20	IS今後総セピオライトとほぼRCPの新旧関係について確認した結果となっております。
0:27:28	右上の直交ニコルの拡大写真で文体 2 の褐色を呈するIS混合層中央へ白色を呈するセピオライトが脈状に生成している状況が確認されました。
0:27:41	また、右下の直交ニコルの薄片写真で、最新ゾーン中に白から黄色を呈するセピオライト全体を横断するように、アンカシ一般解釈を呈するbarCTが晶出しております。
0:27:57	以上のことを踏まえると、IS今後総生成後にセピオライトが生成し、さらにそのあとRCPが生成したと考えられます。
0:28:06	以降のページは再掲となっておりますが、最も新しい変質鉱物であるとRCPが最新面を横断して分布して、横断箇所に変位変形は認められないということを確認しております。
0:28:20	次に、K3 の鉱物脈法による評価につきまして、252 ページをご覧ください。
0:28:29	ここではコメントの 104 番を踏まえまして、
0:28:32	今回計算の性状に関する調査と計算の数、行政評価の考え方を再整理しました。

0:28:41	253 ページは計算の浅部の性状の確認として、露頭観察を行った結果ですけれども、例示として右の写真に示すように、計算は全線が固結した破碎部から成っております。
0:28:57	254 ページは計算の深部の性状の確認として、ボーリング調査を行った結果ですけれども、上の二つの断面図に示したボーリングに加えまして、今回下の2本のボーリングを追加で実施しましたが、255 ページにコア写真を示して、
0:29:14	いますように、いずれも固結した細部からなることを確認しております。
0:29:19	これらのうちの2点に、
0:29:22	Mの2.2 項につきまして、256 ページに概要を示しておりますが、
0:29:28	個別た細部中の最新ゾーンに粘土鉱物のIS混合層は認められました。
0:29:34	これにより計算は、計算の活動性につきましては、K2 と前はK2 と比較することにより、評価を行っておりましたが、今回は他の断層と同じように、鉱物脈法による評価を行いました。
0:29:52	以降のページで詳細について説明します。
0:29:55	257 ページの挙動観察により最も直線性連続性のよい断層面を主せん断面と抽出して、258 ページの微視的観察によって、最も細粒化しているゾーンを最新ゾーンとして抽出しました。
0:30:12	最新ゾーン中に緑色の矢印平面位置と示している比較的連続性がよいも良い面が認められることから、これを最新面と認定しました。
0:30:24	260 ページは最新雑巾でXRD分析を実施した結果で、主な粘土鉱物としてスメクタイトが認められます。認められました。
0:30:33	このスメクタイトについて、年度の収支体育されている分析を実施した結果、IS混合層と判定されました。
0:30:41	二百六十一、二 162 はEPMA分析で、最新ゾーンやその周辺にIS混合層が分布していることを確認しております。
0:30:52	263 ページ以降で、IS今後相当最新面との関係を確認しております、264 ページが反映の観察結果になります。
0:31:03	最新面付近には広く粘土鉱物が網目状に分布しておりまして、最新面が不明瞭かつ不連続となっております、
0:31:11	不連続箇所の粘土鉱物に剪断面は引きずりなどの変形が認められないということを確認しました。
0:31:19	次にK14 の鉱物脈法の評価につきまして、267 ページをご覧ください。
0:31:28	前はK14 につきましては、フィリップサイトのデータをつけておりましたが、発見作成時の乱れの影響を受けている可能性を考慮しまして、これを評価に用いないということとしたことから、最新ゾーンにIS混合層が認められた。

0:31:45	時のマイナス 0.3 の 85 において評価を行いました。
0:31:50	以降のページは最高再掲となっております。
0:31:54	278 ページから
0:31:57	今回新たに評価対象断層として選定したK-18 のうちの方による評価です。
0:32:04	279 ページが位置図で、H-0H-0.2-75 孔において、最新ゾーンにIS混合層が認められたことから、cause脈法による評価を行いました。
0:32:18	280 ページがその概要となっております。
0:32:22	281 ページの巨視的観察によって主断層を抽出して、
0:32:27	数センチ離れて平行に切った 2 枚の観察用発券①②を作成しました。
0:32:34	282 ページ観察用発券①で、微視的関節観察により最新面を抽出しました。
0:32:43	284 ページがXRD分析。
0:32:46	280 号 286 ページがEPMA分析で、最新ゾーンやその周辺にIS混合層が分布していることを確認しました。
0:32:56	287 ページ以降で、IS混合層と最新面との関係を確認しておりまして、288 ページが繁栄の観察結果になります。
0:33:08	最新面付近には広く粘土鉱物が分布して、
0:33:11	最新面が不明瞭かつ不連続となっており、289 ページの拡大写真で連続場所の粘土鉱物に剪断面は引きずりなどの変形は認められません。
0:33:23	またこの薄片から数センチ離れた観察用発見の②ですけれども、291 ページの
0:33:31	微視的観察により最新面を抽出して、293 ページ以降で、IS今後相当の
0:33:37	最新面との関係を確認しております。
0:33:41	これも発見①と同様に、最新面付近には広く粘土鉱物が分布して、最新面が不明瞭かつ不連続となっており、この不連続箇所の粘土鉱物に剪断面は引き続きなどの変形は認められません。
0:33:57	続きまして 297 ページから、断層活動活動と変成鉱物の形成プロセスについてご説明します。
0:34:05	298 ページをご覧ください。
0:34:08	これはコア観察と薄片観察等の観察事実を踏まえて整理した、敷地における破碎部及びS鉱物の形成プロセスの模式図を示したものです。
0:34:20	この模式図の上半分につきましては、破碎部の形成プロセスを示しております。
0:34:26	尾崎 2012 によるPANDAの構造運動と照らし合わせて、安山岩が形成した 22 から 15Maと、同時期に正断層センスの断層活動によって形成された破碎部が現在の固結した破碎部に対応しておりまして、

0:34:42	その後の逆断層センスの断層活動により、形成された破碎部が現在の粘土状破碎部に対応すると。
0:34:51	しております。
0:34:53	この模式図の下半分につきましては、コメントのNo.101 番に対応しております、薄片観察によって直接確認した観察事実に基づいたS鉱物の形成プロセスを示しております。
0:35:08	S鉱物間の新旧関係は、IS混合層の生成後に、／RCPフィリップサイトの生成碎屑岩脈の形成となっております。
0:35:18	そして、変質鉱物は少なくとも後期更新世以前に生成したというふうに考えられます。
0:35:25	またコメントの 99 番にも対応としまして、S鉱物の確認した位置と、交通法による活動性評価を実施した位置について、次の日 299 ページに位置図と表で示しております。
0:35:41	表の一番右の欄にあります、最新ゾーン粒の変質鉱物等を断層活動との関係につきまして、300 ページ以降に示しております。
0:35:54	300 ページは、断層活動とIS混合層の関係で、これは前回と同じ内容となっております。
0:36:01	301 ページは断層活動と／RCPの関係ですが、IS今後その性を生後にセピオライトが生成し、その後オーバーのCTが生成したという新旧関係について記載を追加しております。
0:36:16	なお前回は、酸素同位体分析によるIS今後相当barCTとの新旧関係の検討と、／RCPのTn年代測定結果を参考としてつけておりましたが、
0:36:28	今回覇権換算によるより直接新旧関係を確認したことと、uだまり年代分析によりパールCTのより明確な年代データが取得できたことから、酸素同位体分析とTn年代については、
0:36:43	参考として補足資料のほうに載せております。
0:36:48	302 ページは、断層活動と再生通関脈の関係でございまして、これは前回の再掲となっております。
0:36:56	303 ページは、参考としてIS混合層を対象に実施したカリウムアルゴン年代分析の結果で、
0:37:04	今回紫の色で示した計 18 のデータを追加しております。
0:37:10	形成プロセスの説明は以上です。
0:37:13	続きまして 304 ページから上載地層法による活動性評価になりますが、ここでは前回の資料から追加変更を行った点について説明します。
0:37:24	323 ページをご覧ください。

0:37:29	利益の計上の定量的な評価で、コメントの 105 番への対応としまして、歴の採取時に大きさを規定した文献について、右の採取方法の紫色の文字のところへ加筆しました。
0:37:45	kAの小さい利益は敷地内でのトレンチ調査等の観察結果によれば、風化による形状への影響が大きいことから、
0:37:55	K5 センチ未満まで来は最終時に除いたということを記載しております。
0:38:01	また 324 ページの左下の記載についても、
0:38:05	歴の解析時に、K5000 人未満の列記を除いた根拠を同様に加筆しております。
0:38:11	なお、前回の資料では、長計多数ちゅう関係長計多数関係のいずれかは 10 センチ未満の駅というふうに記載しておりましたが、これはK5 センチ未満の駅とほぼ同じ意味でございますので、よりわかりやすい上限とするために、
0:38:26	朝会長計途中関係の平均値長計と関係の平均値のいずれかが 5 センチ未満という記載に修正しております。
0:38:36	324 ページの例規の形状の継続策につきましては、kAの大きな利益も含めて、K5 センチ以上のすべてのできを対象に実施し、
0:38:47	改正堆積物が平均芯エンドが 0.7 以上育成堆積物は 0.7 未満という結果が入られておりますが、
0:38:56	ここでコメントの 106 番への対応として、一般的に侵食運搬作用を受けにくいと考えられるAの大きな利益の影響も考慮して、同程度のできの大きさを比較した結果を、337 ページのほうに示しております。
0:39:15	337 ページをご覧ください。
0:39:19	kAの大きな利益の影響の有無を確認するために、本地域の改正堆積物及び育成体制物の利益の平均審エンドについて、遅延ごとに区分して整理しました。
0:39:33	その結果が下のグラフになりまして、横軸ができ計で、
0:39:37	その列記区分ごとに、平均し限度を折れ線グラフでエレキの個数を棒グラフで示しております。
0:39:45	青色が改正堆積物、赤色が陸成堆積物を示しております。
0:39:51	冷系として平均深度の関係については、長計と単系の平均値が、
0:39:57	12.5 センチm未満の駅は、治療数が多く、冷系が大きくなるにつれて、原始エンドの値が小さくなる傾向は認められました。
0:40:10	一方長計と関係の平均値が 12.5 センチ以上の液位につきましては、資料数が少なく、れき系と平均信用との関係はわかりませんでした。

0:40:23	なお、いずれの利益計においても、改正堆積物は2ノ性堆積物よりもれきの平均信用度が高く、改正堆積物は0.7以上、育成堆積物は0.7未満の値を示すことから、これまで行っていた平均延伸エンドを用いた
0:40:40	改正対象物の認定結果に影響はないと考えられます。
0:40:45	上載層法に用いる地層については、追加変更点は以上です。
0:40:50	続きまして、352ページからS4の上載層法による評価についてですが、コメントの107番への対応としまして、35メートル盤トレンチと35メートル盤の裏面の堆積物が一連の堆積物であると評価したことについて、
0:41:07	今回定量的な分析を加えましたので、その点について説明します。
0:41:12	300364ページをご覧ください。
0:41:16	堆積物の性状について比較した表で、左に35m盤の裏面へ右35m盤トレンチの実装歴の性状の記載があります。
0:41:29	ここで基質のスモリの程度については、土壌硬度計による行動測定を実施して、れきの風化の程度については、SARRY履歴調査を行って、それらの定量的なデータを紫色で追記しております。
0:41:42	以降のページにデータをつけておりまして、365ページが、硬度測定結果です。
0:41:48	左下の文献で示されている表によれば、土壌硬度計による測定において、その計測値が29ミリ以上のものはごく三つに区分されます。
0:41:58	35メートル盤の2年日トレンチの堆積物の記述は、いずれも平均高度指数が29ミリ以上であり、最も変わった硬い区分である極三つに相当されることから、両地点の地質の締まりの程度は類似しております。
0:42:15	366ページはクサリでき調査結果です。
0:42:19	エレキの風化の程度を定量的に分析するために、1ヶ所当たり50個程度で来についてクサリの程度から観風化利益案クサリでき最適の区分にして区分して、それらの含まれる割合を算出しました。
0:42:35	その結果、35メートル盤法面及び35メートル盤トレンチの堆積物中の歴はいずれも半クサリ歴史体であり、両地点での歴の風化の程度は類似していることを確認しました。
0:42:49	以上のことから、363ページの上から二つ目の丸のほうに記載しております通り、35メートル盤法面の堆積物は35メートル盤トレンチの堆積物の性状が類似しておりまして、定量的な分析結果も踏まえると、
0:43:05	35m盤トレンチの堆積物と一連の体制別あるというふうに判断されます。
0:43:12	続きまして372ページがこれまでの活動性評価をまとめたページとなっております。

0:43:19	上載層法及び鉱物脈法により、敷地内に分布する断層はいずれも将来活動する可能性のある断層等ではないというふうに評価しました。
0:43:30	本資料の説明は以上です。
0:43:33	続きまして、補足資料で今回追加した箇所及び主な変更箇所について説明します。
0:43:40	1枚めくって目次のほうをご覧ください。
0:43:45	目次のグレーの部分は、これまで審査会合で提示しているもので、今回は添付していないもの、黒で書かれたところが活動性評価に関する資料であり、今回添付しているものになります。
0:44:01	まず、補足資料の 5.2-2 のほうで、(12)敷地周辺の変数に関する調査結果。
0:44:08	(11)に敷地深部の変質に関する調査結果ということで、XRD分析チャート等を追加してつけております。
0:44:18	補足資料の 5.2-3 から 12 につきましては、今回追加した発見に関するデータを追加しております。
0:44:28	補足資料の 5.3-1 では、(10)の方に利益のクサリの程度に関する調査データとして、35メートル盤トレンチ等の法面の履歴も計測です。データをつけております。
0:44:42	また、前回からの修正箇所につきまして、5.3-1 の 141 ページをご覧ください。
0:44:51	5.3-1 の 141 ページです。
0:45:00	歴史及び履歴の形状の計測データですが、以降のページの表で網かけした傾向センチメートル未満の駅につきまして、前回の資料では新エンドや中間傾聴経費関係上疑義のある場合がバーになっておりましたが、
0:45:18	K御説明未満のレクについても、それらを表のほうに記載して記載しました。
0:45:25	次に 5.3-2 の 20 ページの
0:45:30	駐車場法面の評価につきます。
0:45:34	5.3-2 の 20 ページです。
0:45:36	駐車場法面の堆積物の評価につきまして、以前の我々の評価である、少なくとも 12 から 13 万年前以前に堆積したという記載がありましたが、本資料のほうでは、この堆積物は年代が明確に判断できないというふうにしておりますので、
0:45:55	文章の適用適正化ということで、ここでは年代の記載は削除しました。
0:46:02	5.3-2 の 24 ページの堰堤左岸トレンチについても同様に修正しました。
0:46:09	また関連するところと、所としまして、5.3-1 の 138 ページ。
0:46:17	5.3-1 の 138 ページの濃く斜面堆積物につきましても同様に修正しました。

0:46:25	資料の説明は以上です。
0:46:31	規制庁タニです。説明ありがとうございました。
0:46:34	それでは資料の方、
0:46:37	確認に入りたいと思います。
0:46:42	今回ですね、全体としては、前回の会合から基本的な評価方針は変わっていないと思っていまして、評価の対象断層としてK-18を加えたと。
0:46:56	計算
0:46:58	断層これ鉾物脈法とかが使っていなかったものに対して鉾物脈法で評価しました。つまりに断層の活動性評価をしっかりと加えてきたということかと思っています。
0:47:13	鉾物には項としては先ほど説明あったように、
0:47:17	少し何か不明瞭だった薄片などは、
0:47:20	これまでから資料を追加していると。
0:47:24	ということですね。あとは鉾物脈の形成時代が古いということについて、周辺や深部の変質鉾物を整理していると。
0:47:34	あとは、上載地層法の
0:47:37	での調査。
0:47:39	等の説明性を向上したっていうのが大きな流れかと思っていますが、そういうことですよね。
0:47:49	北陸電力フジタです。今タニさんおっしゃった内容で、我々も考えて資料を作っております。以上です。
0:47:58	はい、ありがとうございますタニです。それでですね、ちょっと全体的なこととして用いる鉾物脈なんですけど、6ページを見がわかりやすいのかもしれない。
0:48:12	前回ここにはフィリップサイトっていうのがあったんだけど、今回フィリップサイトの
0:48:19	評価は、フィリップサイトで評価している薄片はない状態。
0:48:25	で、それぞれ複数の薄片で見ているようなところもあって、
0:48:29	各断層で一応
0:48:33	K-2、議会系の庭をパールCTなんですけど、その他は、の発火断層は全部イライトスメクタイトを使っていると。
0:48:42	つまりはイライトスメクタイト等、このパールCT
0:48:48	このこの二つで、鉾物脈、
0:48:51	がまま使えるっていうのが言えればですね。

0:48:54	活動性評価できるっていうような流れで執行説明していると思うんですけども。
0:49:01	これ私見てて、よりシンプルなんに説明しようと思ったらですね。
0:49:08	K-2 はパールCTなんですけどこれ 1ヶ所だけをPerICTのみで評価しているっていうのがあって、
0:49:15	ここも例えばイライトスメクタイトで評価したらですね、イライトとスメクタイトを中心に、
0:49:22	降るよっていう説明をしたらいいのかなっていうふうにも思ったりするんですけども。
0:49:27	このK-2 っていうのは、イライトスメクタイトでは評価できない薄片だったんです。今回ライトスメクタイトも見つかってますっていう話なんですけれども、
0:49:37	できなかったから、/RCPを使っているのかそれともともとパールCTでいこうと思ってパールCTなのかっていうのをちょっと
0:49:45	確認させてください。
0:49:50	はい、クリニックのハマダです。Kにつきましては、こちらイライトスメクタイト今後佐藤前探しておりましたが、結果として、パラCTで最新活動を評価することができたということでパラCTを使っております。いろいろスメクタイトについては、
0:50:09	個別メイコーとしては使えるものがなかったということになります。以上です。
0:50:26	K系には、今回抱いたスメクタイトも見つかったのは見つかったけれども、横断しているようなものはないっていう説明でいいですかね。
0:50:37	はいハマダです。そうですねいろいろスメクタイトもありますし、最終的に一番最後にきたのが、パラCTで最新活動と関係が議論できるのが、/RCPたるということになります。以上です。
0:50:54	はい、えっとね最新その辺のちょっとちょっと正確に聞きたいんですけど、要するにライトスメクタイトは最新面を横断していなかったっていうことでもいいですか。
0:51:07	ノハラです。そうです。イライトスメクタイトは最新面を出したものではありませんでした。
0:51:12	はいタニです。事実関係確認できました。
0:51:20	ちょっとですね今事実関係確認したような内容、ここはイライト、なぜ/ここだけをRCPなのかっていうのがですね、はっきりとお考えさっき説明されてないられたスメクタイトあるんだけど、横断しているものはなかったっていうようなのは、
0:51:37	説明加えていただけたらと思います。
0:52:05	規制庁タニです。

0:52:07	イライトスメクタイトが入っている薄片っていうのは、今出しているあれですよ ね。パールCTが入っている薄片と同じ薄片で見てるっていうことで、
0:52:18	いいんですかね。
0:52:21	何ページのイライトスメクタイトここですよっていうページをちょっと示して いただけたらと思うんです。
0:52:30	はい。北陸電力のメモリでございます。経過を確認している場所としまして は 236 ページ、お願いします。
0:52:41	こちら側のEPMA分析を行った絵と薄片のAを示しております、ここで下のマ ッピング分析範囲①写真発信というふうにありますけども、この点を打った位 置、Crossみますと少し黄色っぽく見えておりますけども、
0:52:56	ここがIS混合層というのをピンポイントで確認した位置になります。少し 1 ペ ージ戻っていただきまして、235 ページお願いします。
0:53:07	こちらでもオンラインで囲んだ部分でXRD分析を行っております、こちらで も、この褐色といえますか、この辺りのまたの部分で、S混合層というのがXR D分析でも、の周年XRD分析でも確認できております。
0:53:23	関係というところと言いますと、続きまして 244 ページお願いします。
0:53:31	こちら今度は観察を発表になるんですけども、まず左上の黄色四角で囲んで る範囲ですね、こちら先ほどのEPMA分析で楕円で囲んだXRD分析をした場 所と対応する位置になりますけども、ここで褐色のIS混合層これを
0:53:50	これ中脈状に分布するように、セピオライトが分布しております。このセピオラ イトが最新ゾーンの方に目を向けましても、広く見えているところが同じように セピオライトが分布していることを確認できております、
0:54:04	この際、セピオライトと/RCPとの関係というのが右の黄色四角の拡大であり ますけども、明確に横断している様が見えております。このように三つ変質鉱 物が多く見えておりますけども、前後関係を見ますと、明らかに起こるCTが
0:54:21	最も新しく生成したであろうということが確認できておりますので、
0:54:26	IS今後そうは最新面との関係というところは、この薄片では確認できておりま せんけれども、それをさらに上書きしているRCP、これと最新面の関係が明確 にわかっておりますので、そちらで評価を行ったと、そういうことになります。以 上です。
0:54:47	はい。規制庁タニです。説明は
0:54:51	事実確認できました。それで、見てるところは、見てる観察したところがね、IS だったっていうのをとるん。今の説明聞いてわかったんですけど、これセピオラ イトですかねこの白っぽい。
0:55:07	白っぽい中にこうまじったりして入ってたりとかそういう何ていうんですかね。

0:55:14	横断関係を見ようとして探したけれどもないっていう話なのか、っていうのが知りたいんですよね。探したけどないのかそれとも、もともと探せないようなところで、secIS混合層があったところは、
0:55:30	あったと確認したところが、最新面と関係ないところで確認してるもんですから、
0:55:36	そういうことですよ。だから、関係が見えないって言うてるのか、それとも積極的に探しに行ったけれどもないっていう説明なのか、その辺ちょっともうちょっと詳しく聞かせてください。
0:55:52	北陸電力のハマダです。243 ページの
0:55:56	ちょっと右側のスケッチで説明させていただきます。米の色でいきますと、薄い緑色全体を上の方で言いますと、ローマ数字の 124 に見えるのが、これはイライトスメクタイトでございます。
0:56:14	そういう意味でここについては、イライトスメクタイトは、KA2 のそばに見えています。ただ最新面との関係でいきますと、最新ゾーンである、ローマ数字の 3、ここにつきましては
0:56:29	せんだ水色ですね、これが全体がすでにセピオライトに変わっていますので、そういう意味で最新活動との関係が見えないと、ただ先ほどスモリがいましたように、最新面との関係で言いますと一番最後の来意味
0:56:46	鮮やかなミドルですね、このパールCTでこれが一番最後に、この場所での変質の形跡が見えまして、これと最新面との関係が議論できるということで、KA2 ではパールCTを用いた評価としていると。
0:57:03	いう事実でございます。
0:57:06	以上です。
0:57:09	はい。JIS関係は確認できました。私何でこんなこと聞いたかって最初に言ったように、パールCTも使うんだというのであればファイルシートPerlCTでしっかりと今ご 50 度以上っていう話を
0:57:27	していたのが、なんかグラフを見ると 50 というよりもちょっと低くてもできるんだとかですね、そういった議論になるんじゃないのかなと。イライトとスメクタイトは 50 度っていうのは、数字として出て、その資料非常に充実化している。
0:57:42	だと思っんですけれども、それに加えて/RCPもしっかりと 45 度なのか、或いはもっと低い温度なのかっていうのをしっかり説明してもらう必要がありますよっていうのが、
0:57:55	考えて今確認した。
0:57:57	もともとの趣旨ですので、
0:58:01	北陸のハマダです。それにつきましては、さ今回新たにですね、RCP我々も重要だと思っまして、温度環境もそうなんですけども今回ウラン鉛の年齢分散のことで、それも後でですね、確認したいと思っしております。

0:58:18	その辺の資料見させていただきます。ちょっと飛ばしてその辺のお話させていただきますけど、これ裏鉛使うっていうのがですね、あまり私確認する範囲では、
0:58:33	あんまり事例がないようなものはですね、事業者さん、何ページでしたっけ。
0:58:38	どうなったとかが、
0:58:42	外国の文献、
0:58:44	何ですかね。
0:58:46	書いている1人で、
0:58:49	1人書かれている文献出されているの見たんですけども、
0:58:55	はい。北陸電力ウナミです。／RCPの裏名前ですけど、54ページになります。
0:59:03	タニです。ありがとうございます。
0:59:05	これね、
0:59:08	ねMarkさんですかねっていう構図、文献も引用してるっていうのはわかるんですけど。
0:59:15	スツとはいえ、もともともあるんであればですね。
0:59:24	少しは説明されたかと思うんですけど、これ参考として使われないのであれば、こういったですね本当にこれ適用できるんですかっていう話、或いはこの地点、今の岩盤調査坑、
0:59:39	で見つけたものと、最新面の中にあるものが本当に同じものなのですかとか、そういった話をですね、適用性についてですね、議論していく必要があると思うんですけど、これ確認ですけど。
0:59:56	三坑じゃなくって、これを根拠に／RCPが古いっていう説明をされるっていうことですか。
1:00:04	フジタのハマダです。今回はですねパールCTはこれまでイライトスメクタイトのKアルゴン等の議論をさせていただきましたけども、それに比べましてパラCTにつきましては、
1:00:20	先ほどのパールCTbarCTに直接u鉛の事例は、今回二つですけども手法自身はいろんな場所で使われていますし、今回、先ほどの
1:00:37	岩盤調査坑と同じものかというところは、まだ詰めてませんが、前敷地に広く見メールをパラCTの裏の名前としては年代指標そのものとしては、精度があると考えて今回、
1:00:53	根拠として付けさせていただきました。
1:00:58	来規制庁タニです。あまり今ここで議論するつもりはありませんけど裏鉛てやっぱ古い時代の話、そういった測定になると思うんですよ。
1:01:11	あまり直接断層の鉱物脈を恨ん鉛っていうので、裏鉛とか放射性年代測定っていうのを、

1:01:20	これまでの議論で言うと、参考に使っているっていうのがほとんどだと思いますので、その辺も
1:01:28	把握された上で、
1:01:31	これを参考じゃなくて、絶対年代として使うんだっていう話されるのかどうなのかっていうのを、
1:01:37	整理しておいていただきたいというところです。
1:01:45	クリック電力ウナミです。今ほどのタニさんのご意見の趣旨は理解いたしました。1点我々の考え方といいますか、その部分だけ補足させていただきますと、
1:01:58	確かにこのu鉛ですね、パール2への適用という点に関しては、昔はほとんど適用されてません。ただ近年ですね、ここ数十年の間でかなり適用事例が増えてきたというところで、
1:02:13	我々としても使えるものではないかというところで1点挙げさせていただいてます。
1:02:19	また、u鉛といいますと、年代値が古いというところもありますが、
1:02:24	今回プロットしたときに、年代値の信頼性という意味で、具体的に言いますと、54ページの図でMSWDという、これ、
1:02:36	のずれといいますか、どれだけ誤差があるかというようなところですけど、この辺りが十分に小さいというところで、年代値としても十分に妥当性のある値ではないかということで、今回根拠として資料に載せさせていただいてます。以上です。
1:03:23	規制庁ナイトウですけれども、ちょっと資料の分量が多くて僕途中までしか追っかけ切れてないんだけど、まず今のランダムの話なんだけど、これSワンの話だよな。
1:03:35	伊勢湾でいう108号というこっちは動いてないけども、こっから先は動いていることを否定できないですよって言われているところで、おそらくこの裏のあまりやってるって動いてないところのデータになってるんだけど。
1:03:48	動いてないっていうところの年代を持ってきて動いていることが否定できないっていうところの年代を測ってなくて、これでどうやって動いていることを否定できないっていうところの年代を特定できているんだというふうな論理展開をしてるかちょっとよくわかんない。そこちゃんと説明してもらえませんか。
1:04:08	はい。北陸電力のウナミです。
1:04:11	u生に今barCTで使ってますけども、まず我々の考えとしましては、O/RCPが生成したというのは、断層運動にかかわらず、破碎部c破碎部にかかわらず、同時期に生成したものだろうというふうに考えております。

1:04:29	今回この 54 ページにおつけしている岩盤調査坑は、S1 の破砕部の中にあるものではなくて、S1 の隣にある非破砕部といいますか、空洞のところに脈状に晶出しているようなパールCT
1:04:45	を用いております破砕部ではありませんが、敷地内のパールCTは同時期に形成したと考えておりますので、十分使えろと判断して今回資料に載せております。以上です。
1:05:30	規制庁ナイトウですけども、古浦永井使ってたけどu鉛の燃料補正はナイト一更新されて新しくやり方がフィッティング単位で更新されてるはずなんです。
1:05:41	あれかぼピック
1:05:43	U名前は変わってないということでした。
1:05:48	北陸電力のウナミです。はい、そのように理解しております。
1:05:53	はい。起こります。
1:06:04	一定の効果が個別の断層行く前に敷地周辺を規制庁ナイトウですけども、敷地周辺でも一部変質鉱物の話で、
1:06:12	そこがまずね使えるものなんですけどどうなんですかっていうところの前提条件になるんだけど、
1:06:18	全然聞いとるを敷地付近で認められる変質鉱物と大坪側ダムの話あるんですけども、ここは熱水変質を受けているということでもいいんですか。
1:06:32	はい、北陸電力ウナミです熱変質を受けていると考えてます。以上です。
1:06:55	そうですね。私もちょっとその辺、ナイトウさんと同じように気になってまして、
1:07:01	今回周辺の鉱山等の調査っていうのをされています。それで結構高温でできるような鉱物があつて、
1:07:12	そういった説明もされていると、例えば石英が出てたりとかですね、緑泥石ができております。それって何ていうんですかね。これ事業者さんは、
1:07:24	鉱物脈法っていうのをイライトスメクタイト 50 度ぐらいから 100、110 度でしたっけっていう範囲の中で説明されようとしているっていうのと、ちょっとそれ、あまり高いものが出てくると、何か熱源が違うんじゃないのかとか、そういった話とかもなんか
1:07:43	ちょっとあんまり説明がないなっていう気がしてて、私ちょっと思ったのが、これ、敷地で使ってるのはほとんどがIS今後そうなんですよね。で、それに対して、例えば周辺の、
1:07:58	海岸だとかですね、そういったところで同じようなのが、御社の調査として、これ文献主体でさっきのダムのところは御社がやられてるっていう理解なんですけど、御社の方の調査として例えば海岸を確認しに行ったりとか、そういったことはされてるんですか。事実確認だけです。

1:08:19	はい。北陸電力ウナミです。まず最後のですね海岸部の調査の件ですけども、以前からお話しさせていただきます通り、露頭調査で海岸部歩いております。その際に、敷地の海岸部と同じような固結した破碎部があるというのは以前から説明させていただきました。
1:08:38	前回からのヒアリングのコメントを踏まえましてですね、今回、再度、変質脈があるかどうかという観点で再調査をしております。その結果ですね、ぼんやりと白色化してるような演出の可能性のあるところがあったんですけども、
1:08:55	明確に熱水変質脈のようなA逆は見つけれられておりません。今回資料にお示ししております大坪側ですとか鉱山こういったものはいわゆる典型的な変質部分だと思ひまして、
1:09:11	今回そういったところを特化して
1:09:14	検討して資料を作成したというところでございます。以上です。
1:09:20	はい。規制庁タニです。説明されてることは何となく多かったですけど、ただね、敷地であって、
1:09:28	IS混合層があるんじゃないのかとかいうのは、結構なんていうんですかね。調査して調査して、ようやくわかっているようなところもあってそもそもそんな明瞭なものじゃなかったと思うんですよ。で、そういった状況がおんなじようなものであるんであれば、
1:09:43	局所的な熱源を考えなくてもよくなるっていうような趣旨で、前回会合で発言したと思うんですけどね。そういった点で、海岸沿いだとか、もともと、
1:09:58	何か今の話を聞くと、見えにくいからもう見ませんでしたっていうふうには聞こえたんですけども、その辺踏まえてどうなる可能性もなさそうなんでしょうか。
1:10:12	はい。北陸電力ウナミです。
1:10:15	確かに今敷地と同じような少し温度対の低めの鉱物ですねそういったものがあるかという観点では
1:10:23	綺麗な答えは出ていなくてですね海岸部でいきますと、やはり露岩しているので、粘土鉱物がドア残ってないというところもありまして、敷地の場合は深い深部のボーリングで、量も取れますし、そういったものを濃集して、IS混合層というところを特定できると。
1:10:41	いうことを考えて実施しておりました。ただ、敷地周辺の海岸部ですね、これはあまり、
1:10:50	そもそも変位質が強いとあまり見つけてないというところもありますし、分析の量も確保厳しいというところも正直ありまして、今回は明確なところをメインでつけているというところでありまして。以上です。
1:11:08	はい。とりあえず事実確認できました。

1:11:11	あとはですね会合で言った趣旨として鉱物脈があつてですね、さらにそれが高位段丘だとか中位段丘とか時代が分かってるようなもので切られているようなものがあればですね、それも参考になるんじゃないのかという趣旨を、
1:11:29	会合では言ったつもりなんですけれども。
1:11:33	今回新しいところ、大坪
1:11:39	川でしたっけ、そういったところを見てここへ、そういった何か、この上に高位段丘がありますとか、実際こういう段丘があつてそこに伸びてませんとかそういう確認はされてないんですか。
1:11:58	はい、北陸電力キムラです。
1:12:00	大坪川ダムの方ですけども、今回確認した表土剥ぎのところに大坪が
1:12:10	ダム何トレンチという福浦断層を確認したトレンチがありまして、そこには高位段丘の堆積物が分布しております。
1:12:20	今の資料にはついていないんですけども。
1:12:24	大坪がダム右岸トレンチの堆積物を確認入射ところ、その第4系の堆積物中には、白色鉱物脈というのは確認されておりますね。
1:12:38	またその下の岩盤の穴水累層につきましては、ここ高位段丘Ib面に位置しておりますので、風化が著しく白く全体的に変質しています。
1:12:53	というような状況が認められます。
1:12:57	そういった状況から、barCTという白色鉱物脈という形では確認できておりません。
1:13:09	はい。規制庁タニです。それで、要するになんか上新しい直接直接ですね、鉱物脈みたいなのが、新しい面で切られていたりとか新しい堆積物で削剥されていたりとか、そういったのは、
1:13:26	今回確認できなかったという説明、直接ですよってということなんですかね、あとは加えて敷地内の例えばトレンチだとかで何か一見して、脈状のものが写真でもあつたりするようなもの。
1:13:41	そういったものの確認っていうのはどうだったんでしょうか。
1:13:46	北海道ハマダ、
1:13:49	すべてハマダです。今のまず敷地の中ですけども、敷地の中では直接白色脈で、我々が使っているようなものを年代がわかっているものをというところは、直接は確認できていません。
1:14:06	で、ちょっとそのもう一つ一つ前に戻るんですけども、敷地周辺でいろいろとスメクタイトについて探したのかということで先ほど海岸の話もありましたけど、48ページの都議鉱山の

1:14:22	上から三つ目のハマダ大統領 2019 のこのハマダの金沢大学のハマダ先生なんですけども。
1:14:30	ここの右の 3 ポツ目に、ここでイライトスメクタイト混合層というものを確認しております。これ実は金沢大学と北陸電力の方で共同で研究してる中の一つの成果なんですけども。
1:14:45	周辺でイライトとスメクタイトは一つ確認してるというのは、48 ページに記載しております。これちょっと一つ前の回答になります。
1:14:54	以上です。
1:15:00	規制庁タニです。
1:15:02	これ私も見てますよ。ただですね、
1:15:08	会合のときに言ってるのは地下深部でできたものが、とこ周辺と一緒に上がってきたんであれば、
1:15:16	同じような状況がその周辺でも同じような状況がこう広くこう出るんじゃないんですかってこれやっぱり、何ていうんですかね。あった場所あった場所が、
1:15:28	何ヶ所かポイント的に選ばれているっていうふうに私はちょっと資料見て、今のところそう感じてるんですよね。で、その辺が広範囲で、
1:15:39	どう、どう説明されるのかなっていうのはちょっと、
1:15:43	うん。
1:15:44	今後も確認していきますので、よろしくお願いします。
1:16:02	規制庁ナイトウですけれども、ここのね、結論としての皆さんの論理構成がよくわからなくて、
1:16:09	ずっとね、前回我々が指摘したのは、敷地が熱水影響を受けてないという形です。言ってるって進めてアルバイト化してないですよって話があって、
1:16:22	その中で、DBAと低温比較的低温な、いろいろスメクタイトなんだけど、それは熱水の影響だってことをそういうことも含めれば考える必要がないであろうという論理展開になっているんだけど。
1:16:37	だとすれば、深部でできたということであれば、比較的広い範囲で同じようなブククリースを、が同じような状況になっているっていうことが、
1:16:53	自然なんだけれども、
1:16:55	そういう状況にあるのかどうなのかっていうことについてきちんと示してくださいということをコメントしています。
1:17:02	今回出てきたやつを見ると、
1:17:05	一番敷地に近いダムのところでも、これは熱水変質を受けてますという話になっていて、鉱山のやつもみんな熱水変質を受けてますってなってる。

1:17:17	受ける椅子を今回の調査ではアラブ気流輸送というのは、
1:17:21	基本、
1:17:23	熱水変質を受けているという。
1:17:27	結論でいいんですか。
1:17:29	皆さんの利点がようわかんないですよ。
1:17:35	はい。北陸電力のウナミです。敷地周辺の穴水累層全体が熱意並立し続けていると考えています。ただ、敷地で認められる変質鉱物の生成温度というのは、確かに今おっしゃられるような、
1:17:52	大坪はだめですとか横断と比べると、低目の温度が出ているというのも事実であります。ただ我々の考えとしましては、敷地周辺が全体で変質するような状況の中で、
1:18:07	熱水変質というのは、
1:18:10	断層沿いでありますとか割れ目だとか、熱源からの距離、そういったものに応じて、変質の度合いは変わるというふうにされてますので、そうした変質の強い部分が鉱山であったり、大坪が無だは川ダムという、
1:18:25	所で顕著に現れていると、そうした県庁の変質が見られないものの、おんなじように関連する例えば周りで石英が見えてますけども、そうした石英の少し温度の低めの鉱物といいますと、RCPIになります。
1:18:40	そういった関連した鉱物が敷地内で認められるということも踏まえますと、敷地全体広範囲が同じような変質、新しい変質が強いところは、鉱山であったり、つばがだめだったり、
1:18:56	少し高めの鉱物が出ていると、そういった評価をしております。以上です。
1:19:06	規制庁ナイトウですけれども、まずはこの敷地周辺で変質鉱物がどういうものがあってというところについては、事実関係として、客観的な事実としてどういうことがわかったということと、
1:19:23	ね、それこここのところで温度関係とか今低いと高いとか言ったけどその辺の話が何も書いてないとまず事実関係としてどうなんですかと。
1:19:33	いうのをまずきちんと整理してください。それを踏まえた上で、皆さんの考えとしての部分はどうか、事実関係と考えをごっちゃにしないでください、まずはきちんと事実関係としてデータとしてはどういう意味がそろいました。
1:19:48	そこを綺麗に整理してください。その上で、
1:19:50	皆さんはそのデータを踏まえた上で、どういう解釈をしてるのかっていうのは、事実関係別の話なので、それを分けてきちんと、
1:19:59	結論としてしっかりと書いてもらえませんか。それぞれ議論的な。

1:20:05	はい。Fujiiのハマダただいまのコメント承知しました敷地で言いますと、何が 出てて、今回 50 ページで示すように、200 メートルほど下に行けば、高温の石 英が出ているという周辺に行きますと、鉱山付近では、
1:20:21	高のものが出ますし、その他鉱山から離れたところでは、どのようなもの が出ているのかという事実をまとめた上で、こちらで考えている解釈をまた別 途、解釈としてわかるように書きたいと思います。以上です。
1:20:38	規制庁タニですけど、お願いします。
1:20:41	とですね、あと私のこの辺の 50 ページでちょっと確認したいんですけども、
1:20:49	今回これ新しく出していただいたデータで、非常にですね、確かこの設計が途 中で変わるとか、
1:20:58	規制庁ナイトウですよその時にね敷地のトレンチの写真とかもちゃんと出して きて、薄膜っぽく見えるものとかいろいろトレンチの側面で見えてるところがある んだけど、それは鉱物脈として鉱物なのかどうなのかということも含めて、
1:21:15	きちんと
1:21:16	説明を入れるようにしてください。
1:21:20	もう。
1:21:21	はいハマダです。例えばですね今 329 ページとかに上載層の例えばこれはS E6 のNo.ニトリとかのSKETCHを入れております。今ナイトウさんおっしゃら れたしてはこのs2VI以外に、
1:21:39	安山岩と書いてあるところに脈状のものがあるのかどうなのかということにつ きましては、こちらの方では、白っぽいものを分析したところカルサイトが出て おりまして、省いサイトとなりますと、この地点が地表に出た後の風化の影響 で出た。
1:21:57	影響で白色脈がもう風化の影響受けてると。これまで議論していたイライトスメ クタイトのいいものがちょっと形として残らずに、FP地表の風化の影響が大き い、大きい春先によって白色になったようなところは、
1:22:13	こういうようなスケッチのところでは幾つか確認しておりますけど、イライトとスメク タイトというものが、ここでは確認できなかったということになります。以上で す。
1:22:24	はい、きちっとナイトウですけども、そういうのをきちんとデータとして整理を して、
1:22:31	それをデータですよ、きちんとしてやったことをやってて取得したデータがど ういうものが出られていてというな武器累層として、地表のところではどうい うものがあるとか、そういうのきちんとデータとまとめてください。それがないと議論 できない。
1:22:46	お願いします。

1:22:47	はい、儘田です。承知いたしました。
1:22:55	規制庁タニです。先ほどの話の続きで 50 ページの石英が、
1:23:00	深くなったら出てくるんだよっていう話、これ
1:23:04	何ていうんですかねこの温度環境の右側につけていただいているですねと、何かイメージが工程でできてくるようなものなんですけど、この文章の中に、これ主に/RCPを浅いところでお前、パールCT深いところで主に、
1:23:21	石英っていうことを書かれてるんですけど、この重荷っていうのはですね、例えば浅いところにも石英はあるって言っているんですか。
1:23:31	どこから急に出てくるんじゃないかと、主についていうことは、浅いところにもあるのはあるけれども、
1:23:39	深くなると、割合が多くなるって話なんですか、ちょっとこのデータが、要するに、無作為に選んでるデータがこれなのか、それとも何か設計がありそうなところをピックアップしてるってことなのかちょっと確認させてください。
1:23:56	はい。北陸電力のウナミです。まず 50 ページにつけてます図ですけども、こちらは今回新たに取得した大深度ボーリングの結果に加えまして、以前からパールCTが見つかった資料ですね。
1:24:13	これのうち、震度がかぶらないようなものをピックアップして載せてきております。で、主にと書いた理由ですけども、
1:24:24	この図でいきますと、上から番目ですかね。資料 9 としているスガヤ資料 4。
1:24:34	4、4 ですね、資料 4 としている部分からK13. 六甲の 236.4 メートル、
1:24:44	この部分につきましては、
1:24:46	パールCTいわゆるクリスト払いと取り巻いとピークさらには水系のピークが認められます。
1:24:54	いわゆる漸移的謎でおパールCTさらには石英両方ともが見える、正しい割合でいくと、深度 200 メートルを超えると石英の方が強くなっていくというところで、主にとという記載をしております。以上です。
1:25:12	規制庁タニです。説明ありがとうございますと集まりだから浅いところには設計ないって思ってるってことだという設定進めたと理解しました。加えて、こういったことが見えてくるとですね。
1:25:25	例えば、
1:25:28	内ないって言ってたアルバイトか。
1:25:31	の話。
1:25:32	これじゃあ、もっと深いところに行ったら、
1:25:36	アルバイト化しているような現象見えるんですか見えないんですかとか、今のこの説明石英の増に入ってきているけれども、

1:25:45	要するにより高温でなところまで見えてきているんだっていうふうな説明に私は取ってるんですけども、そうやってきたときに、早朝先ありませんよって今まで説明してきたことと、その辺の環境はどうなるのかなっていうのをちょっと確認させてください。
1:26:07	はい。北陸電力のウナミです。
1:26:10	アルバイトからですね曹長石化の検討というのはほとんど地表に近い部分でやっております。エレベーションで言うとゼロに近いような部分でやっております、ここでアルバイト化していないということになります。今大深度で石英が出てくるところの温度を見ると、
1:26:28	文献踏まえると、アルバイト化してもおかしくないかなというふうに考えております。ただそのデータを我々今取得しているわけではありません。以上です。
1:26:41	規制庁タニです。前回の会合でもなんかアルバイト化の話で、前回の選定のときにですね。でもですね、出てて、アルバイト化がどういう状態であるから、アルバイトとか持ってきてその上限温度とかを決めてるはずなんですよね。
1:26:58	これ結構大事なことだと思うんですけど、今後そういったデータとられる予定だとか、
1:27:06	あれば、なければないでちょっと確認させていただきたいというだけなんですけど。
1:27:11	あるのかないのか教えてください。
1:27:14	はい。北陸電力のウナミです。
1:27:17	先週の海岸部の選定で石渡委員の斜長石のコメントもありましたし、アルバイト化というのは、温度の指標として非常に重要なものだと我々も考えておりますので、薄片をつくって、アルバイト化の有無がどうなのかという検討を実施していきたいと今考えているところであります。以上です。
1:27:39	はい、規制庁通りです。確認できました。
1:27:44	あともうこれは念のため確認なんですけど、石英今回見つかったって言うんですけど、念のため確認ですけど石英と断層の関係が見えるところは、これは、
1:27:55	三つ見つからないんでっていうことでもいいですかね。新しい調査を踏まえても、
1:28:02	北陸電力のスマリです。今のところ、その調査結果を踏まえまして設計と断層最新活動とですね、関係がはっきり見えるところについては見つかっておりません。以上です。
1:28:13	はい、わかりました。
1:28:15	はっきり
1:28:16	はっきり見えるところもはっきり見えなないけどありそうなところもないんですかね。

1:28:23	はい。北陸電力ウナミです。石英に関しましては、エレベーションで言うとマイナス 200 メートルというところで、敷地内断層、それより上のところ見ますので、探しても見つからないかなというふうに思ってます。以上です。
1:28:39	はい規制庁タニスガヤ要するにだからこのボーリングにね、入ってくるような断層はないんだってということですね。S1 なんかは全然離れてないっていう説明だと思っいいですか。
1:28:54	北陸電力ウナミです。はい、その通りです。
1:28:57	はい、確認できました。
1:29:02	あとはですね、ちょっと話飛ぶあと細かく会議構成薄片の話とか後でしたいんですけどちょっと話飛んでて、
1:29:10	337 ページ、ちょっと前回のコメントを踏まえて整理していただいたんですけど、337 ページですね。
1:29:20	これ確かに
1:29:24	何ていうんですかね、できの大きさに
1:29:28	もっと
1:29:29	とるで機能大きさにもかかわらず、新限度っていうのは傾向があるんだっていう説明されてると思うんですけど、これ私は思うんですけど、まずは前回の議論を踏まえると、どこがどういう粒径なのかとかいう、
1:29:48	結局これ出されても、どこのデータが支配的になって、5.0 から 7.5 の値が決まっているのか、7.5 から 10 の値が決まっているのかが、これだけでは見えませんよね。で、まずは多分箇所ごとに整理するとか、
1:30:05	もちろん数が少なくて、なかなかデータにならないところもあるんだと思うんですけど、まずは全体的にここの箇所はどういう大きさのものがあって、こういう傾向なのかっていうのを整理した上で
1:30:20	図を
1:30:21	見させてもらわないと、今の説明っていうのはちょっとですねまだ
1:30:28	これでいいのか悪いのか判断できないかなと思っています。
1:30:32	どうでしょうか。
1:30:36	北陸電力キムラです。370 万 337 ページにつきましては、べきの大きさとしんエンドの関係があるのかなのかということ、
1:30:51	確認を行ったということで、
1:30:54	改正と判断した地点離型と判断した地点ありますけども、
1:30:59	まずは
1:31:01	これが総合して、どういったという傾向があるのかというのをまで来てるべき系統。

1:31:08	平均値限度に着目して、関係を見たというものでございます。これら個別の地点の
1:31:18	円につきましては、
1:31:20	ちょっと整理しておりませんでしたので、これにつきましては、ちょっと次回整理して、
1:31:29	ご説明したいと思います。はい。以上です。
1:31:32	施設庁タニです。はい。これはデータとしては数値としてはあるものを中身見えるようにしてくださいという話なのでぜひちょっと、
1:31:41	整理していただけたらと思います。
1:32:26	規制庁のカイダです。私の方からもちょっと資料の中身について、
1:32:32	確認させてください
1:32:35	まずですね、
1:32:46	11 ページに先ほど来、
1:32:50	ちょっと議論というか確認させていただいている変質鉱物のここですね。
1:32:57	の図で
1:32:59	まず一つこれはただ
1:33:02	資料の 7 に
1:33:04	書いてあるかっていうの確認だけなんですけど、
1:33:07	これで一番ひどい左の
1:33:10	原子力発電、
1:33:13	環境整備機構 2014。
1:33:16	増員をされていると。これはその機構が
1:33:23	作った図なんでしょうか、それともこの機構がどっかから引用してきたやつ我真西孫引きみたいなものなのか、まずその点教えてください。
1:33:36	はい。北陸電力のウナミです。この図につきましてはですね、40 ページをお願いします。
1:33:44	結論から言いますと、孫引きのような形で引用をしております、左側の表の中の上ですね、IS混合層という部分の表の一番下に原子力発電整備。
1:33:59	整備機構、こちらを引用しております、こちらの文献自体が、一つ目のポツですね、中ほどにありますかand2000 と、こういった図を用いて作成しているものを我々としてとしてはBTのような形で引用しております。以上です。
1:34:20	はい。規制庁カイダです。わかりましたじゃ
1:34:24	一応そういうことは示してあると思うんですけど 51 ページもわかるようにしておいていただきたいのと、あとそれに関連してそれでは先ほど言ってますように、この 50 度なのかとか、

1:34:40	これがどのぐらいの温度で生成するのかっていうのが、
1:34:43	今回このサイトのこれを評価するのに重要なと思いますので、
1:34:48	ちょっと細かい点確認させていただきたいんですが。
1:34:52	この文献によれば、51 ページの今の図の説明で、
1:34:58	50° で生成する場合には数十万年以上の期間を要するとされると。
1:35:03	結構だからこういうのがあれば古いということを証明する一つの知見になるのかなと思うんですが、この図、先ほどのグラフ見ると 50 のだと、幾らたってもイライラはできなくて、もっと高い温度じゃないと。
1:35:19	できないような図になってるんですが、
1:35:22	っていうのは
1:35:24	50° っていうのは、そのグラフ理由ひし形というか、
1:35:29	なので 100 万年経ってもスメクタイトのまんまという図で、この今ここに記載があるのは、
1:35:36	合ってるのかなというところなんですけれども、これはこの説明はこのグラフの説明をしているわけではなくて、また別のことを説明されてるということで、
1:35:47	よろしいですか。ちょっとその確認させてください。
1:35:53	はい。北陸電力のウナミです。まず、51 ページの申請に関して、承知いたしました。語尾ということがわかるように、紛らわしくないような記載に修正したいと思います。それで 51 ページのこのふたポツ目の
1:36:10	文献によれば、50° で生成する場合に、数字万年以上の期間を要するとされているという、いう文字とこの図との対応ですけれども、こちらは一対一対応しているわけではありません。
1:36:23	40 ページをお願いします。
1:36:27	40 ページはですね、今日本原子力発電環境整備機構のずっと合わせまして、こちらはIS混合層に関する知見なんですけども、／CTさらにはフィリップサイト、この三つの鉱物についても、
1:36:44	同じように、温度と生成期間の関係に関する文献調査を実施しております。これら三つの鉱物に関する文献調査を総合しまして、50 度で推移するには数十万年、
1:36:58	の期間を要するという結論を 51 ページに記載しているというところでございます。以上です。
1:37:10	はい。規制庁のカイダです。
1:37:12	うん。ちょっとあの 51 ページを見るとですねその辺りのところが、
1:37:17	伝わらないので、そこは紛らわしくないような、
1:37:23	表現というか、説明でお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

1:37:29	はい、承知します。下、
1:37:31	カイダです。引き続いて今 40 ページのところに、
1:37:36	tなのでそこでの説明も確認させていただきたいことがあります。
1:37:44	先ほど来の 50°C50° っていう話であるんですけども、
1:37:50	近しいん部。
1:37:52	よく出てくる図が
1:37:54	40、42 ページにあって、吉村 2001。
1:38:01	の引用ということで、これで上の上端がイライトスメクタイト 50 度、
1:38:06	ということでお示しいただいてるんですが、
1:38:10	これはあくまで地下深部に埋没したときに、イライトが進めばスメクタイトがイライト化するかどうかという図で、これは 50 度とは書いてあるんですが、その 40 ページの辺りの
1:38:26	このいろんな文献を引っ張られてきているのを見ると、熱水変質でできる作ろうとすると、50° じゃなくて 100 度とかそれぐらいじゃないとできないような、
1:38:38	印象を受けるんですが、
1:38:41	要は先ほど何ページかの前にフローチャートが
1:38:48	フローチャート、
1:38:50	21 ページにフローチャートがあるんですが、
1:38:54	50 度、
1:38:56	っていう環境っていうのが 521。
1:39:00	1-2。
1:39:02	中のフローチャートという中ほどのところで、
1:39:06	50 度以上となる環境において生成したっていうところがあって、その下に地下深部と熱水という二つに分かれてるんですが、
1:39:15	地下深部の増大だったら 50 度で熱水だったら、100 度とかっていうそういう考え方は、
1:39:24	じゃなくて、まず 50° っていうのが先に出てきて、
1:39:28	そこで何か分かれるというか、この辺りの考え方というか、
1:39:35	50° にしているっていうところを教えてくださいんですけども。
1:39:41	よろしいでしょうか。
1:39:44	はい、北陸電力のウナミです。我々の現在の評価とおっしゃったしましては、地下深部さらには熱水この両方の間合いを検討して、50 度という温度を設定してますで 42 ページでありますとか 40 ページに、
1:40:02	記載のある文献を見ていきますと、

1:40:05	しかし、いわゆる属性というようなところで記載されてるような文献の温度等、熱水で記載されてる文系の温度を比べますと、熱水のほうが温度が高い。
1:40:17	ということが記載されてます。
1:40:20	今回、年代の評価にあたっては、温度が低いほうが現環境下でもできる。最近の環境でもできやすいということも踏まえまして、低めの評価、低めの温度で評価することによって、保守的な年代の評価ができる。
1:40:36	いうふうに考えまして、地下深部さらには熱水も含めた文献調査のうちで最も低い地下深部の側の 50 度というのを採用して、50 度以上という評価をしています。以上です。
1:40:55	規制庁のカイダさん承知しまして
1:40:59	結局は保守的なというか、そういった観点で一律に 50° というふうに、
1:41:05	扱われているというふうなことで、こういった考え方であることは、今説明いただいて、
1:41:15	わかりました。
1:41:18	でも事実関係としては先ほどのようなことがあるということの前提でということ
1:41:24	で、
1:41:24	了解しました。はい。
1:41:27	私の方から、こちら辺の話に関するところで以上です。
1:41:41	規制庁タニです。
1:41:43	ちょっと私の方から細かい薄片の
1:41:47	介護つう次の会合でも論点になろうかということ。
1:41:52	についてちょっと確認していきたいんですけども。
1:41:56	まずですね、100、まずこれ資料見て、最新面の認定っていう
1:42:02	のが一つ論点だと思って、182 ページ、いいですか。
1:42:13	これって、メイン 1 っていうのを最新面として認定して、その他に観察される面っていうのを 2 本ほど引いていると。
1:42:25	事業者さんの説明としては比較的連続性がよい面 1 っていうのを評価しますということなんですけど、これを私がぱっと資料見たときにですね、この一番右のその他に観察される面とどう違うんでしょうかとかですね。
1:42:40	なんか余りにこう簡単に説明し過ぎて、御社の考えている、こういった面を評価すればいいんだっていうのがですね、ちょっとまだ資料としてお渡しは見えてこないっていうような状況があります。
1:42:55	或いは 258 ページ。

1:43:02	これも同じですね。258 ページメイン 1 っていうのを緑色の線で書いてるんですけど、これ見ていくと、何かあえてこの何っていうんですかね。歴があるようなところ。
1:43:16	利益があるようなところをあえて通してるわけなんですけれども、これが本当に何か一番連続性がよいという評価っていえるのか、例えば、もうちょっと左に行くところ割れてはいますけれども、ずっと割れ目が連続しているようなものもある中で、
1:43:33	このメイン 1 が一番連続性がいいよ。
1:43:37	ていうのが何かよくわからないんですよ。例えば 259 ページで見ていくと、
1:43:42	年 1 の認定ってこの緑色のちょこちょこちょこつこう書いているので、これ、そもそもわかりにくい面談だっという説明は私これ見ててわかるんですけども、説明されてるのはわかるんですけども、その中で、
1:43:57	その中でもこの面を評価するっていう話であればですね、もうちょっとしっかりと御社の考えていうのが落としてもらいたいと思うんですけど、何かその辺に関して付け加えて説明されることとかありますか。
1:44:15	はい。北陸電力のスモリでございます。今ほどタニさんからご指摘ありました。例えば 182 ページですとか 258 ページ 9 ページ。
1:44:24	というところでご審議緑私どもとしてももちろん考え方を持って、こういうふうに設定しておるんですけども、資料として、少し詳細なところまで読み取れないという部分も確かにございますので、この文化の記載を充実しまして、
1:44:40	わかるような資料にしたいと考えてございます。以上です。
1:44:46	はい、規制庁投入すまは考えを聞かせていただいて、そこから
1:44:50	確認させていただきます。
1:44:53	あとはですね、引き続き前回会合でも言いました乱れているような薄片で見えてはいけないんじゃないんですかっていうことなんですけど。
1:45:03	そういう意味では、
1:45:05	大分ですね、新しく新しいデータを取られたりとか、乱れているようなものはちょっと 1 回棄却したりとかそういったことをしたりてるのはわかりますんで、ちょっと確認したいんですけど、例えば 126 ページのこの F8.5 の
1:45:21	'だとか、こういったのはもう御社はこれ見乱れていないと。
1:45:26	いうことで評価してるっていうことですよ。
1:45:31	大分こう割れ目が、
1:45:33	割れ目沿いで、
1:45:35	割れたものとすぐすぐ近くで評価しているような、
1:45:41	場所ですけど。

1:45:44	北陸電力のメモリでございます。今回
1:45:48	前回の会合でご指摘いただきました乱れの影響の可能性を考慮しましてというところで、今回Bたり新たに追加したりということをしたんですけれども、今ご指摘のあった129ページなんかを例にご説明しますと、この未来の影響があるかないかというところの一つ考えた。
1:46:06	基準としましては、やはり今連続最新面が不連続になっているというところ、周辺を特にやっぱ注視してみるべきだというふうに考えまして、前回ご指摘いただいた薄片を見ますと、やはりその周辺の母岩が見られていたりですか、
1:46:23	そういう端っこに位置していて僕が見られていたりとか、そういういくつかのポイントがありまして、そういう観点でこの229ページ見てみますと、最初に不連続になっている箇所。
1:46:35	が、覇権としてはこのゾーン全体が確かに乾燥収縮で区域等はあるんですけども。
1:46:42	この最新面が不連続になっている箇所のすぐ左の母岩を見てみますと、しっかりと密着して、粘土鉱物のどこにも乱れないと。
1:46:52	最新ゾーンがその区域で乾燥して空隙があるというのは確かにそうなんですけど、要は不連続なところにその影響があるかないかという観点だときに、周辺の母岩は見られていないというふうに観察できますので、その部分を考慮しましてこれは
1:47:08	派遣の未来への影響を受けていないと判断して、活動性評価に用いてございます。
1:47:16	今ご説明しました旨も、次回と資料に記載して、わかるようにしたいなと思えます。以上です。
1:47:23	はい規制庁タニですそうですねお考えがこう示していただいた方がいいと思ってます。
1:47:29	あとはその緑のんな話の中で、135ページの
1:47:34	前回会合ではですね、この面についてののが補足する資料であって、説明されて、この面についてのに対して、結構目乱れてますよねっていうような話をしたと思うんですよ。
1:47:49	で、今回、実はその辺の評価を補足説明。ここに135ページの補足資料5.2-4、
1:47:59	を見てみると、ちょっと話が
1:48:02	説明のロジックが変わってると思います。要するに不明瞭になっていくんだからこれを面には見なくていいんだっていうような説明だと思うんです。これ前関わり格子で指摘していることも踏まえて、
1:48:18	これやっぱ補足資料2個目に行くの。

1:48:22	結構探しにくいんですね。1 ページとかで終わるんであればもう資料の中に入れていただきたいし、ちゃんとそういったことも説明してもらえたらと思います。ちょこちょこ薄片の評価の中に、これは補足説明資料で説明していますっていうのが、
1:48:38	何ヶ所かでごあるんですけども、もうそれも入るんだったら本店のほうに入れてもらったらと思うんですけど。
1:48:45	どうですかね。そう。なんかこう補足じゃないといけない理由とかありますか。
1:48:53	クリーン力のものでございます。今ほどの補足資料のほうに引っ張っているものにつきましては、基本的には最新ゾーンの周辺を注視してみるべきというところで、私どもが最新面と認定した場合に、協会ですね、が、
1:49:08	殺処分として見なかった場合、なぜ見なかったのかというところを文章では記載しておるんですけども、その部分、保守料のボリュームを考慮して本章ではなく、補足資料でというふうにつけておりましたが、今ほどタニさんご指摘ございましたように、それぞれ 1 枚で済むようなものがいくつか、
1:49:25	あるだけですので、本手法に落としまして、よりわかりやすく整理したいなと思っております。以上です。
1:49:32	規制庁タニです。よろしくお願いします。
1:49:35	あとはですね、これも細かな点なんですけど、99 ページ。
1:49:40	今まであんまり説明した
1:49:44	確認してないんですけども、
1:49:46	これ碎屑岩脈、
1:49:51	の評価なんですよ。これ私、前も聞いたのかもで 99 ページの一番右のスケッチの
1:50:00	絵と、このオレンジはがん編、オレンジはがん編っていうふうに、
1:50:06	評価してますこのAと薄片の右上の方ですね。
1:50:10	それ、それでその横の緑色ってこれは碎屑岩脈って書いてるわけなんですけど、この評価で、これ私ぱっと資料見ると、この碎屑岩脈等、このがん編っていうのが、
1:50:25	何が違うのかよく見えないですね例えば薄片を見ればわかるのかもしれないんですけども、何が違って、
1:50:35	こういう評価になってるのかっていうのは何か加えてもらえないかなと思いますけど。
1:50:41	いかがですか。
1:50:44	はい、北陸電力のスマリでございます。

1:50:47	そうですね、ちょっと全体写真見ていただくとよりわかりやすいんですけども 95 ページをお願いします。
1:50:56	95 ページのほうで、
1:50:58	今ほどちょっと最後の方に映しておりますけども、
1:51:01	この文体 4 のところですね。うん対応のところ、ここ破碎部分としましては固結した破碎部になるんですけども、その中でもそういったような部分と、左右な部分というふうに分かれてございます。
1:51:14	この左右の部分が粘土状破碎部中の日碎屑岩脈と連続するということから、この部分を碎屑岩脈というふうに評価してございます。
1:51:25	その中で、形状見ますと、今ほど顔面としているところは、フラグメントのような形で
1:51:32	個別破碎部のように基質全体というふうな形ではなく、それが岸壁上に分布しているように確認できておりますので、この部分を元本というふうに評価してございます。
1:51:44	そちらにつきましても、資料の方に今ほどの説明した内容がわかるように、資料充実させたいと思います。以上です。
1:51:52	はい規制庁タニです。お考えをちょっと教えて欲しいんですけど、私これちょっと見てて今の元本って言うところ、このメイン1っていうを青い線がグーッと入ってきてるん中に入ってる。これ碎屑岩脈ってしてるんですけどこういった
1:52:08	中にこうなんですかね膨縮したような形の
1:52:13	何かって言ったらいいですかね。中子そういう形のものをコーポレートパツと見てんなんかを同じような組織に
1:52:22	まとめ見えるので、ぜひちょっとその辺説明していただきたいと思って。
1:52:27	いました。
1:52:31	ですね、あとは碎屑岩脈の関係でいうと、今回なんか、ここはCode測定しましたよと。
1:52:42	いうのを新しくつけてくれてまして、これ前回の会合の指摘を踏まえて、
1:52:49	資料を追加したということなんですけど、これって何かもっと拡大した写真だとか、これ碎屑岩脈ですよっていうのを、
1:52:59	どんな特徴なのかっていうのがあった 61 ページですか。
1:53:07	これ今もあるんだったら、ちょっと大きく写真撮って何かつけてもらったほうがいいかなと思ってます。
1:53:15	あとは、何ていうんですかね。

1:53:19	そもそもこういうのがすごくたくさんあるのかどうなのかとか、これはたくさんあるのかどうなのかっていうのはこれ別資料に入れる必要ないんですけど、いっぱいあるもんなんですか、教えてください。
1:53:33	北陸電力のメモリでございます。まず 1 点目ですけども資料へ拡大して、より見やすくすることについて承知いたしました。が次回修正して、地方としておつけたいと思います。
1:53:43	もう 1 点碎屑岩脈が多くあるのかという点につきましてははですね、見え方がいろいろ違うものをはあるんですけども、柱状図でお出ししております中に碎屑岩脈という記載は、ここ今お示したところ以外にも数ヶ所ございます。
1:54:01	ですから今御示したところとしましては、いわゆる典型的な碎屑岩脈に見える部分につきましては張りかえに試験を実施してございます。
1:54:08	それ以外の部分につきましては、かなり前に起こったもの等もございまして、やっぱりそういうとこで張りかえに試験しますと、ちょっと正確な値が出ない可能性もありまして、こういう形状が比較的しっかりしており、また比較的最近といますか、
1:54:23	COM形状がしっかりしているもので、Alikalに試験を実施したという経緯になってございます。以上です。
1:54:30	はい。規制庁タニです。今の説明で、だからこれあんまりすごく特殊な碎屑岩脈じゃないっていうことで理解しました。
1:54:41	ありがとうございました。
1:54:43	あとはですね、これちょっと体裁だけな 299 ページで、
1:54:53	これを作りまして前回これも会合で言ってどこでどういう、
1:54:59	鉋物が見出てるのかっていうのをわかるようにしてくださいっていうふうに言ったんですけど。
1:55:05	もうこれ、
1:55:07	何ていうんですかね、ついでにじゃないですけど、
1:55:10	地点番号、これどれとどれがリンクしているのか、例えばこの/RCP確認位置ってこう書いてあるんですけど、これ何のボーリングで見つけたのかっていうのが、ここ。
1:55:23	ちょっとわからないんですよね。これ何かもっと前のページとリンクしているんですか。
1:55:29	どこを見たら今わかるのかっていうのと、あとこれも番号をつけて一覧表にしてくれたらいいのになって思ってるんですけどその辺、
1:55:38	説明、まずはどこ見たらこの地点がどこなのかをわかるのか教えてください。
1:55:47	はい、北陸電力ウナミです。この 299 ページの位置図と、地点の対応ですけども。

1:55:55	今は鉱物メイクを実施した超過地点のみの位置図等を町が対応するような形になっておりまして、それ以外の鉱物名機構に用いない。ただ、変質鉱物が見つかっただけにの点については、
1:56:10	この 299 ページには載ってなくてですね、具体的に言いますと 35 ページになります。
1:56:19	こちらに位置図と資料、
1:56:23	名、
1:56:24	ここに一覧で記載してございます 299 ページにすべての情報載せると、情報が多過ぎてわかりにくくなるのかなという思いもありましたので、活動性評価に用いてる部分だけを抜粋して載せていると。
1:56:40	というような思いがあります。以上です。
1:56:46	はい、規制庁タニです。お考えはわかりましたけど、あとはフィリップサイトどこ見たらわかるんですかとか、もう何か一つ一つ私が確認していくぐらいだったら、もう表をつけてもらったほうがいいかなと思ったりしますので、ウナミ破損します。お願いします。
1:57:30	あともももっと細かい話をタニですけど、
1:57:34	もっと細かい話で、34 ページ、いいですか。
1:57:40	HRTMこれ前回の会合のにあたって、何か 117 のネタですか、1 ナノメーターと 1.3 の方向の違いってどうやってみてんですかっていうので、このコントラストを
1:57:57	説明してもらってるんですけど、これって何か
1:58:03	全体的にきつと見えるんだと思うんですけど、なんかすごく局所的な話をされてるようなイメージがあって、なんかもっとこれってたった 1.011。
1:58:18	1.0 っていうのが確認できてただけなのか、その周りもやっぱりこうずっと確認でき出てくんできて、私ちょっとその辺詳しくないんですけど、この両比が大体その御社の言われているような 10%とか 20%だとか。
1:58:36	30%ぐらいのイライトの
1:58:41	単位層っていうのがあるのかとか、そういった整理とかっていう、できないんですけど私これちょっと見てて、本当。
1:58:51	1ヶ所だけで説明されてもらっているふうに思っていますが、
1:58:57	どうでしょうか。はい。北陸電力のウナミです。34 ページの 1RTMについてですけど、この 34 ページの左側の少し拡大した方の写真を見ていただくと、綺麗に見える部分と、ぼやっとあまり
1:59:14	縞状の模様が見えにくい部分があります。今回この東京大学の小暮先生に指導を仰ぎながら、一緒に観察をしておったんですけども、ぼやぼやとしたところで曖昧に評価をするよりも、

1:59:29	はっきりとしたところで、
1:59:31	明確に処理を図ったほうがいいという助言もありまして、今 34 ページの
1:59:38	右側の下ですね、単位層の測定方法というところで記載しておりますけども、こちらのaポツで電子顕微鏡で設定した位置RTM像で画像解析を実施し、明瞭なコントラストが認められる探査の間隔を測定したということで、
1:59:54	一番見えるようなところで測っているというところでございます。で、敷地内で 10%、今イライトが 10%以上混合しているというようなところで、確率論的といえますか数を売って、そういった検討もあるのではないかとということも、
2:00:11	検討はしておったんですけれども、明確に見えるところをまずは優先するということより確実な評価をつけているというところでございます。以上です。
2:00:23	はい。規制庁タニです。だからコントラストがはっきりしてて、見えるところはそんなになんないということで、今の説明はいいんですか。
2:00:36	北陸電力のウナミです。同じように 1.0 に見えるようなところはたくさんあります。1.3 のように見えるところもたくさんあります。ただ、超過としてはこの 1ヶ所をメインで見ているというところでございます。以上です。
2:00:53	はい。規制庁タニです。事実確認ができました。
2:01:13	規制庁のカイダです。一つだけ確認。
2:01:18	したいところがあります。89 ページをお願いします。
2:01:32	その通いですね
2:01:37	左脇に模式図がついているかなと思うんですけれども、これは
2:01:43	注入現象の事例ということで、恐らくはこれ、
2:01:49	粘土鉱物なんか、ここに入ってたのがやわらかいものだから、
2:01:54	家断層が動いたときに言うと、押しつぶされるというか、
2:01:58	そこに強い注入されてしまってるようなもんであった。
2:02:03	あった場合活動性評価に
2:02:05	使えないから、
2:02:07	そうではないってことを説明するというそういう趣旨でついてるってことのでよろしいでしょうかまずちょっとそこを確認したいんですが。
2:02:17	北陸電カスモリでございます。今カイダさんおっしゃられた趣旨で結構でございます。
2:02:23	はい、カイダです。
2:02:25	そうしますとこれ今この各々の薄片の写真の説明んところになって初めてこういった図が、しかも模式図といった、しかも
2:02:37	関連の資料の引用という形でぽっついているんですけど、これは以前にこういったのはもう少し、

2:02:46	説明された上でっていうんでしょうか。ちょっと前回までの資料が、
2:02:51	すべて置いてないんですけども、これは
2:02:55	何か説明他に詳しく説明があるようなところっていうのはあるんでしょうか。
2:03:02	クリック電カスモリでございます。当社としまして、この注入現象というところをある程度事例を、例えば注入の事例注入していない事例という形で詳細にご説明したものは、当社としてはご提示してございません。
2:03:16	In用度課いうふうに書いてございます通り、任されている奥さんの方の資料で、
2:03:24	その中に現象の検討というのをされてまして、同様の検討という形でそちらを引用させて頂かせていただいている、そういうものでございます。以上です。
2:03:35	はい。カイダですが、わかりました。
2:03:38	注入の話っていうのはこれ
2:03:42	結構
2:03:44	本当にこれが使える薬なのかっていうところを検討する上で大事かなと思いますので、
2:03:52	もうちょっとですねなんかこれに関する説明っていうのをどっかに入れておいていただきたいなと思います。
2:04:01	SKETCHIはここにスケッチというか、模式図あるんですけども、実際、本注入であればこういったものなんだっていうの。
2:04:09	できれば写真等あればいいんですけども、
2:04:13	そういうマスの例えばこの 89 ページの
2:04:17	図写真を見ると、特に上の段のところなんかこう中にいっぱいポツポツとかが編みたいなのが、
2:04:27	入り込んでるように、これって、
2:04:30	これは寺田断層のと、
2:04:32	同じじゃないかっていうのは、
2:04:34	ふうにも見えてきたりしますので、これと違うんであれば違うっていう形で他のところも一緒に、注入であるっていうことがじゃないっていう、御説明であると思いますので、注入っていうんだったらこういうもんなんだっていうのを、
2:04:51	もうちょっときっちり示していただいてそれとは違うっていうところはわかるように、資料の充実をしていただきたいなと思いますけれども、よろしいでしょうか。
2:05:03	ク電カスモリでございます。今までもカイダさんおっしゃいました一つ一つや二つ、そういう局所的な部分で、やはり長軸がJとあってくるというのはもちろんそ

	れはありますけども、やはりその抵抗性がないというところで、注入現象ではないというふうに判断してございます。
2:05:18	今のような話判断できますように、実際の写真ですとか、そういう説明資料を作成しまして、改めてご提示したいと考えてございます。以上です。
2:05:28	はい。よろしく申し上げます。どっかには資料に入れておいていただければよろしいのでよろしく申し上げます。
2:06:10	規制庁タニです。あとですね、ちょっとこの補足資料、結構棒厚い補足資料なんですけど、これ敷地の地質地質構造についてということで今回の議論に必要なものがついてるのかなと思って見てたら、
2:06:27	例えば 105.3 の 1-129 だとかですね。
2:06:34	結構周辺の何ていうんですかねまだ議論
2:06:38	できていないんじゃないのかというような、
2:06:42	地点のデータも入っているわけなんですけれども、
2:06:47	これって何ていうんですかね。
2:06:51	こういう議論してくださいなのかただ単に参考としてつけてるのかとか、そういう位置付けを
2:07:00	明確にして欲しいのと、あんまりこれ今回、今回のという
2:07:07	議論に必要なことはEでなくていいんじゃないのかなっていうことで、
2:07:13	補足資料の構成ですね。
2:07:16	ちょっと考えていただけたらなと思うんですけど。
2:07:24	はい。
2:07:25	北陸電力キムラです。今ほど、
2:07:30	と言われましたのは、5.3-1 の 129 の
2:07:34	中位段丘 I 面に指摘事項Cの堆積物が混在しないことに関する検討っていう。
2:07:42	ところ。
2:07:44	そうですね特にこの中で、ちょっと敷地から離れたところで、
2:07:50	これ交差っていうこの面の議論って、周辺のとときに 1 回聞いておりますけれども、これって我々、
2:08:00	何かこれでいいって言ってるつもりもないですし、まだ十分議論議論できてないようなものですよ。
2:08:09	はい。
2:08:10	SKの堆積環境、これ、これにつきましては、敷地の議論には約 2 秒ないかと思われまので、これはちょっと
2:08:20	今参考として載せておりましたけども、

2:08:26	まずしたいと思います。
2:08:30	段丘 I 面がステージ 5c でないということは、
2:08:37	5.3-1-130 ページにありますように、
2:08:42	段丘、
2:08:45	回線 10 変動曲線と対比しまして、
2:08:50	時格子の高さでは絶対でない敷地の高さには来ないということを確認できますので、
2:09:01	131132 につきましては、
2:09:05	今回は外したいというふうに考えております。
2:09:09	以上です。はい、規制庁刀禰です。はい。確認でき、
2:09:14	ました。使う使うだけで、特に議論
2:09:19	敷地内で議論すべきものですね、そういった観点で必要なものに、
2:09:25	挑んでいただけたらと思います。
2:09:28	あとで前回会合のコメントの確認をしますが、C 資料については、我々の方から確認したいのはいいことは、今日のところは以上にしたいんですけども、何か。
2:09:44	ちょっと待ってくださいね。規制庁ナイトウですけども。これ資料のつくりの話なんだけど。
2:09:50	ね、本編資料もそうだし、補足説明補足するのがまだマシなんだけど、
2:09:57	薄片をね、アップにしているところで、
2:10:01	どの断層のどうのこうのどれなのかって何も書いてなくて、
2:10:07	その辺は満たししっかり入れてもらえませんか。
2:10:14	はい。クリーニングハマダ承知しました。
2:10:17	例えばね、例えばこれ 88 ページだとこれ S 湾の
2:10:23	1-6.7 行の
2:10:26	範囲のっていう範囲の
2:10:29	薄片。
2:10:30	だと思っただけど、
2:10:33	89 ページもそうなんだけど、
2:10:36	これだけ見てどうのこうのものなのかとか全然わかんなくて前をペラペラ見ていかないと。
2:10:42	わからないっていう資料のつくりになっているので、
2:10:46	薄片をきちんと見たこの薄片はどの薄片なんですっていうのをきちんと明示するような作りにはしてございません。

2:10:56	はいハマダです。承知しました各薄片にすべて断層名と名がわかるように修正させていただきます。
2:11:08	はい、規制庁たんです。
2:11:12	事業者さんの方から何かはありますか。
2:11:17	北陸電力フジタです。今のところ確認事項はございません。ご指摘時間のところは配布させていただきたいと思っております。
2:11:27	はい。それで、
2:11:30	それで、資料の適正化っていうのが結構出てたと思うんですけどこれ、
2:11:36	今の時点でどれぐらい時間がかかりそうなものなのかとか。
2:11:41	もし何かこうお答えいただけるんだったら、
2:11:51	北陸電力フジタですけども、今薄片関係のちょっと作業なり分析規定のまとめもちょっと必要かなと思いますんで、今のところ
2:12:02	3週間程度、
2:12:04	ぐらいで資料化して、
2:12:07	イメージですけども、どうでしょうかね。
2:12:12	はい。そういった感じで、こちらは待っておきますので、までできたらですね、見えてきたらまた連絡いただけたらと思います。
2:12:23	資料については以上です。あとはコメントリスト、これ上げていただいていますけど、これは評価対象断層の選定の前回の10月2日のコメントリスト。
2:12:38	私の方からこれは特にこの内容でいいと思っております。
2:12:44	何かこう、
2:12:46	これ、このコメントリストに関してありました聞きますけど、
2:12:54	北陸電力のハマダです。このコメントについての回答を次回の活動性の方で含めてもよろしいでしょうか。
2:13:14	規制庁投入須磨会合としては一緒にしてもよくなって、この趣旨の資料を作ってもらおうということで問題ないと思います。
2:13:23	はい、承知しました。
2:13:25	はい。またそういったロジ的なことはこちらも考えて連絡しますので、
2:13:32	よろしく願いいたします。
2:13:34	はい、お願いします。他は。
2:13:37	ありませんか。北陸電力さん、事業者からは特にございません。以上です。
2:13:43	はい。それでは、これを持ちまして今日のヒアリングを終わりたいと思います。お疲れ様でした。